

三郷町教育委員会
教育に関する事務の点検及び評価報告書
(令和元年度実施分)

令和2年9月
三郷町教育委員会

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第1項の規定に基づき、令和元年度実施分の教育に関する事務の点検及び評価を行いましたので、その結果をまとめ、報告いたします。

令和2年9月8日

三郷町教育委員会

教育長 大西 孝浩

教育長職務代理者 鶴丸 浩

委員 芝崎 善彦

委員 窪内 真一

委員 下方 恵理

目 次

I	点検・評価の概要	1
II	町教育委員会の活動状況	2
III	施策及び事業の点検・評価	5
	1. 三郷町教育大綱との対応関係	6
	2. 令和元年度主要事業と主な内容	7
	3. 点検・評価項目	
	①学校施設の整備	8
	②教職員研修の充実	10
	③就園・就学の支援	12
	④特別支援教育の推進	14
	⑤情報・国際教育の推進	16
	⑥いじめ・不登校の対策	18
	⑦地域の教育力の向上	20
	⑧安全・安心の学校づくり	22
	⑨学校給食体制の整備	24
	⑩幼児教育の充実	26
	⑪生涯学習の推進	28
	⑫青少年の健全育成	30
	⑬人権教育・啓発の推進	32
	⑭文化センターの充実	34
	⑮文化活動への支援	36
	⑯図書館の充実	38
	⑰文化財の保護と活用	40
	⑱生涯スポーツの推進	42
	⑲スポーツ施設の整備	44
IV	学識経験者の知見の活用	46

I 点検・評価の概要

1. 点検・評価の目的

町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況を点検及び評価を行うことで、これまで取り組んできた施策の課題等を明らかにし、効果的な教育行政の推進を図るとともに、その結果を公表することにより開かれた教育行政を推進することを目的としています。

2. 点検・評価の対象

点検及び評価は令和元年度の実績に基づき、「町教育委員会の活動状況」及び「町教育委員会が実施する施策及び事業」を対象としています。

3. 点検・評価の実施方法

- ①町教育委員会の活動状況については、令和元年度の教育委員会議の開催状況や審議事項等を総括し点検しました。
- ②町教育委員会が実施する施策及び事業については、「三郷町教育大綱」の基本目標となる「子育てなら三郷町」「教育なら三郷町」「住み続けるなら三郷町」の3つの柱のもとに設定した20の項目に沿って19の点検評価項目を定め、事務、事業ごとの令和元年度実績を検証し、「事業評価シート」にまとめました。
- ③点検及び評価に当たっては、客観性を確保するため、教育に関する学識経験者から指導・助言を受け、報告書をまとめました。

【点検評価有識者】

氏名	所属・役職
かなやま のりまさ 金山 憲正	奈良学園大学 副学長 (人間教育学部 教授)

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」～抜粋～

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 町教育委員会の活動状況

1. 教育委員

役職名	氏名	備考
教育長	大西孝浩	
教育長職務代理者	鶴丸浩	
委員	芝崎善彦	
委員	窪内真一	
委員	下方恵理	

2. 教育委員会議の開催状況

- ① 定例会・・・12回
- ② 臨時会・・・2回

3. 教育委員会議の審議状況

- ① 審議事項・・・28件
- ② 報告事項・・・17件（各課別報告除く。）

※次頁以降に、令和元年度の教育委員会の開催状況及び審議状況を記載しています。審議事項については「議案」として、その他の報告事項については「報告」に分類し、記載しています。

4. 教育委員の活動状況

- ① 学校(園)計画訪問実施(年1回)
幼稚園1園、小学校2校、中学校1校
- ② 小中学校教諭との意見交換会(年1回)
小学校2校・中学校1校
- ③ 各小中学校・幼稚園PTA役員との意見交換会(年1回)
- ④ 学校行事への参加
入学(園)式、卒業(園)式、運動会、体育祭、文化祭等
- ⑤ 各種会議、行事、研修会等への参加
子どもの安全対策連絡会議、学校支援地域本部事業実行委員会、人権教育、青少年育成各種会議、不登校対策連絡会、各種研修・研究大会、成人式等

令和元年度 教育委員会議の開催状況について

会 議	平成31年 第2回教育委員会臨時会	開会日	平成31年4月4日(木)
議案	・三郷町教育委員会教育長職務代理者の指名について		
会 議	平成31年 第4回教育委員会定例会	開会日	平成31年4月16日(火)
議案	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年三郷町成人式の開催について ・三郷町児童生徒就学援助要綱の一部改正の専決処分について ・三郷町不登校対策連絡会議設置要綱の一部改正の専決処分について 		
報告	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会事務局職員の人事異動について ・教職員の人事異動について ・生駒郡教育長会について ・生駒郡地教委連絡協議会について ・各課別報告 		
会 議	令和元年 第5回教育委員会定例会	開会日	令和元年5月21日(火)
報告	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルについて ・各課別報告 		
会 議	令和元年 第6回教育委員会定例会	開会日	令和元年6月25日(火)
報告	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員報告について ・給食費の滞納状況について ・各課別報告 ・令和元年第2回(6月)三郷町議会定例会の報告について 		
会 議	令和元年 第7回教育委員会定例会	開会日	令和元年7月16日(火)
報告	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業期間中の町立小学校における学校閉庁の実施について ・各課別報告 		
会 議	令和元年 第8回教育委員会定例会	開会日	令和元年8月20日(火)
議案	<ul style="list-style-type: none"> ・三郷町心身障害児就学指導委員会への諮問について ・令和元年度三郷町カーボン・マネジメント強化事業(第2号事業)三郷小学校整備工事請負契約の締結に係る専決処分について ・令和元年度三郷町カーボン・マネジメント強化事業(第2号事業)三郷北小学校整備工事請負契約の締結に係る専決処分について ・三郷町立竜田運動公園の設置及び管理に関する条例の一部改正について ・三郷中央公園多目的広場の設置及び管理に関する条例の一部改正について ・教育に関する事務の点検及び評価報告書(平成30年度実施分)について ・令和2年度小学校及び中学校使用教科書採択について 		
報告	<ul style="list-style-type: none"> ・公益財団法人三郷町文化振興財団の経営状況について ・各課別報告 		
会 議	令和元年 第9回教育委員会定例会	開会日	令和元年9月17日(火)
議案	<ul style="list-style-type: none"> ・三郷町小中一貫教育検討委員会設置要綱制定の専決処分について ・三郷町心身障害児就学指導委員会委員の委嘱について 		
報告	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年第3回(9月)三郷町議会定例会について ・各課別報告 		

会 議	令和元年 第10回教育委員会定例会	開会日	令和元年10月15日(火)
議案	<ul style="list-style-type: none"> ・三郷町心身障害児就学指導委員会の答申について ・三郷町心身障害児就学指導委員会への諮問について ・三郷町学校支援地域本部事業実行委員会の委嘱について 		
報告	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度町立学校(園)計画訪問の日程について ・平成30年度図書館の利用状況について ・各課別報告 		
会 議	令和元年 第11回教育委員会定例会	開会日	令和元年11月19日(火)
議案	<ul style="list-style-type: none"> ・三郷町心身障害児就学指導委員会への諮問について ・三郷町文化センター条例の一部改正について ・令和4年4月1日施行の民法改正に伴うそれ以降に行われる三郷町成人式の取扱いについて 		
報告	<ul style="list-style-type: none"> ・各課別報告 ・三郷北小学校増改築工事等について 		
会 議	令和元年 第12回教育委員会定例会	開会日	令和元年12月17日(火)
議案	<ul style="list-style-type: none"> ・三郷町心身障害児就学指導委員会の答申について ・令和元年度卒業(園)式及び令和2年度入学(園)式について 		
報告	<ul style="list-style-type: none"> ・各課別報告 		
会 議	令和2年 第1回教育委員会定例会	開会日	令和2年1月21日(火)
報告	<ul style="list-style-type: none"> ・三郷町立学校についてのアンケート結果について ・各課別報告 		
会 議	令和2年 第2回教育委員会定例会	開会日	令和2年2月18日(火)
報告	<ul style="list-style-type: none"> ・各課別報告 		
会 議	令和2年 第1回教育委員会臨時会	開会日	令和2年2月28日(金)
報告	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全法第20条に基づく臨時休業(休校)について 		
会 議	令和2年 第3回教育委員会定例会	開会日	令和2年3月17日(火)
議案	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度学校評議員の委嘱について ・三郷町文化財保護審議会への諮問に係る専決処分について ・三郷町文化財保護審議会の答申について ・令和2年度町立学校(園)の教育課程について ・三郷町立学校に勤務する教育職員の勤務時間の上限に関する規則の制定について ・三郷町スポーツ競技全国大会等出場者奨励金交付要綱の一部改正について ・三郷町文化財の指定について 		
報告	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年第1回(3月)三郷町議会定例会について ・各課別報告 		

Ⅲ 施策及び事業の点検・評価

1. 点検・評価の項目

点検及び評価に当たっては、より効率的で実効性のあるものにするため、「三郷町教育大綱」の施策体系に沿って、次頁の表のとおり19の「点検・評価項目」を設定しています。

点検及び評価の方法については、各事業の課題とその改善方法及び結果について、PDCAサイクル(※)に従い、詳細に記載するとともに、成果指標と決算額を示し、成果とコストを明確にするようにしています。

また、国や県の補助事業については、その内容や額等を明記しています。

2. 点検・評価結果の内容

各項目は、「1. 基本事項」「2. 事業概要・目的」「3. 事業実績・結果」「4. 点検評価・課題」「5. 改善方法・結果」「6. 今後の計画・方向性」に分類しています。

【基本事項】

→施策の名称、担当課、教育大綱との相関性及びその施策が目指す基本的な方向性を記載しています。

【事業概要・目的】

→各施策に基づいて教育委員会が実施した事業の概要とその目的を記載しています。

【事業実績・結果】

→実施した事業の実績及び結果を記載しています。数値については、令和元年度実績です。（「◎」については、補助事業を示します。）

【点検評価・課題】

→事業実績及び結果に基づき、事業の達成度、成果及び課題を記載しています。成果については、成果指標と決算額を数値で示しています。また、課題については、継続的な課題とともに、令和元年度における新たな課題に分類して記載しています。

【改善方法・結果】

→継続的な課題に対する改善方法及び結果並びに新たな課題に対する改善方法などについて記載しています。

【今後の計画・方向性】

→事業の今後の方向性と計画について記載しています。

※PDCAサイクル

計画(PLAN)→実行(DO)→点検(CHECK)→見直し(ACTION)の流れを次の計画に活かすことで、継続的な改善を図るプロセス。

【三郷町教育大綱との対応関係】

<教育大綱 基本目標>

I 「子育てなら三郷町」

仕事と子育ての両立を支援するサービスと質の高い教育を提供し、若い世代や子育て世代に「安心して子育てができる」と感じてもらえるまちを目指します。

II 「教育なら三郷町」

まち全体で子どもたちの成長をサポートできるよう、ICT環境を整備また活用し、地域の豊かな自然と歴史を活かした教育等を取り入れて学校教育の充実を図るとともに、孤立する子どもをつくらないための取組等を積極的に進めます。

また、学校と地域の連携を深めながら、地域における学習や世代間交流の場づくりなど、すべての人が生涯にわたり学習できる機会を提供します。

III 「住み続けるなら三郷町」

生涯を「学び」の機会として捉え、心豊かな「ふれあい」と「地域愛」をもって、子どもからお年寄りまですべての人が生きがいをもってイキイキと暮らすことのできる活力ある地域づくりを進めます。

基本目標	基本施策	点検・評価項目頁
I 「子育てなら三郷町」	・放課後の学習の機会の充実と子どもたちの居場所づくり	P20
	・豊かな心と感性を育む幼児教育の充実	P26
	・誰もが質の高い教育を受けることができる就園・就学の支援	P12
II 「教育なら三郷町」	・学校施設の整備と充実	P 8
	・ICTを活用した小中一貫教育の導入	P16
	・特別支援教育の充実	P14
	・ICT教育と国際教育の推進	P16
	・いじめ・不登校の対策の推進	P18
	・安全な学校づくり	P22
	・学校給食体制の充実	P24
	・地域の教育力の向上	P20
	・文化教育の推進と地域愛の醸成	P36
III 「住み続けるなら三郷町」	・幅広い図書利用の推進	P38
	・生涯学習の推進	P28
	・青少年の健全育成の充実	P30
	・人権教育・啓発の推進	P32
	・文化センターの充実	P34
	・文化活動への支援	P36
	・図書館の充実	P38
	・文化財の保護と活用	P40
	・生涯スポーツの推進	P42
・スポーツ施設の整備	P44	

令和元年度主要事業と主な内容

点検・評価項目	主要事業及び内容
①学校(園)施設の整備	・学校、幼稚園の改修・整備工事
	①町立小学校空調設備設置工事(カーボンマネジメント強化事業)
	②三郷小学校給水ユニット取替及び受水槽改修工事等
	③三郷北小学校火災受信機リニューアル工事
	④三郷北小学校給水ポンプ修繕工事
	⑤三郷北小学校視聴覚室機器改修工事
	⑥三郷北小学校静養室等改修工事
	⑦南畑幼稚園通路屋根新築工事
⑧南畑幼稚園保育室エアコン設置工事	
②教職員研修の充実	・小・中学校、幼稚園の教職員研修、県実施研修への参加
③就園・就学の支援	・小・中学校就学援助、幼稚園就園奨励補助、育英振興助成
④特別支援教育の推進	・特別支援教育の推進、教育相談、特別支援教育就学奨励
⑤情報・国際教育の推進	・校内LAN・教育用コンピュータの整備、ALT(外国語指導助手)の派遣
	①町立学校授業支援システム・遠隔通信システム構築事業
	②教育用ソフトウェアライセンス購入
	③ICT支援員の配置
④町立学校及び幼稚園へのALT派遣	
⑥いじめ・不登校の対策	・スクールカウンセラー活用、心の相談員、メンタルヘルス相談、不登校対策連絡会
⑦地域の教育力の向上	・子ども人権学習支援事業、学校支援地域本部事業
⑧安全・安心の学校づくり	・子ども情報ネットさんごう、さんごう子ども見まもり隊、青色防犯パトロール
⑨学校給食体制の整備	・安全安心の学校給食、食育の推進、食物アレルギー対応、地産地消の推進
⑩幼児教育の充実	・地域に開かれた幼稚園、子育て支援
⑪生涯学習の推進	・学習基盤の整備、各種学級の運営
⑫青少年の健全育成	・青少年育成三郷町民会議、ふれあいのつどい、教育講演会、成人式
⑬人権教育・啓発の推進	・識字学級、人権教育地区別懇談会、人権問題学習セミナー、人権相談
⑭文化センターの充実	・公開講座・文化教室、グループ活動の支援
	・施設整備
	①文化ホール舞台照明ボーダーケーブル修繕
	②エレベーター設置入替工事
	③地下駐車場天井修繕工事
④玄関床タイル改修工事	
⑮文化活動への支援	・生涯学習の指導者等の活用支援、各種団体への助成
⑯図書館の充実	・情報資料の提供、子ども読書の推進、生涯学習事業の推進
	・施設整備
	①空調設備設置工事(カーボンマネジメント強化事業)他
⑰文化財の保護と活用	・文化財の保護、文化財の啓発・活用、地域の歴史学習の機会の提供
	①文化財や万葉歌の多言語翻訳対応解説板(QRコード対応)設置
	②「近畿日本鉄道旧東信貴鋼索線車両(ケーブルカー)」等の文化財指定及び信貴山下駅前展示
⑱生涯スポーツの推進	・スポーツの推進、軽スポーツ事業
⑲スポーツ施設の整備	・スポーツ施設の整備、指定管理
	【施設修繕・整備等箇所数】
	①竜田運動公園(7箇所) ②勢野グラウンド(3箇所) ③スポーツセンター(3箇所)
	④ウォーターパーク(2箇所) ⑤中央公園多目的広場(3箇所)
	【指定管理】(株)翔成(H30年度～R4年度)

令和元年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	①学校施設の整備	担当課名	教育総務課	教育大綱位置づけ	Ⅱ「教育なら三郷町」
基本方向	<ul style="list-style-type: none"> 学校施設の耐震性を確保します。 誰もが利用しやすい環境とするため、施設の整備を行います。 				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 三郷北小学校にバリアフリーの一環としてエレベーターを設置するとともに、児童数に対して不足している教室及び職員室の増築や老朽化の著しい外壁の補修工事を実施するため、「三郷北小学校大規模改造工事」の設計を実施。 障がいの有無に関わらず、「どもにおもい とともにまなび とともにそだつ」ことができる学校施設環境を整備するとともに、各設備の老朽化対策を逐次実施。 年々急増する熱中症への対策として、国庫補助金(カーボン・マネジメント強化事業)を活用して空調設備設置工事を早期に実施。 施設及び非構造部材の耐震化は一定終えているものの、施設等の老朽化が深刻である状況に鑑み、再生整備(改修)を計画的に実施するため、学校(園)施設の「個別施設長寿命化計画」の早期策定を目指す。
---------	---

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	○各学校・園の施設整備状況(主な補修工事等、事業費200,000円以上)	
	【三郷小学校】	
	工事名称	事業費(円)
	給水ユニット取替及び受水槽改修工事	5,184,000
	消防用設備不良箇所修繕	241,380
	◎カーボン・マネジメント強化事業整備工事(空調設備工事)	123,749,640
	合計	129,175,020
	【三郷北小学校】	
	工事名称	事業費(円)
	非常階段手すり塗装工事	337,500
受水槽修繕工事	273,240	
給水ポンプ修繕工事	1,299,650	
火災受信機リニューアル工事	2,749,680	
視聴覚室機器改修工事	1,171,800	
換気扇取替工事	216,540	
◎カーボン・マネジメント強化事業整備工事(空調設備工事)	78,484,680	
静養室等改修工事	9,988,000	
合計	94,521,090	
【三郷中学校】		
※補修工事等は、新築校舎のため該当なし。		
【南畑幼稚園】		
工事名称	事業費(円)	
通路屋根新築工事	1,566,000	
保育室エアコン設置工事	1,004,400	
合計	2,570,400	

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ・施設・設備の老朽化対策として、三郷小学校では給水ユニット取替及び受水槽改修工事を、三郷北小学校では給水ポンプ及び視聴覚室機器改修工事など、各種補修工事を実施した。【成果指標①】 ・カーボン・マネジメント強化事業補助金を活用し、三郷小学校及び三郷北小学校における全普通教室に空調設備を整備した。 ・三郷北小学校において、令和2年度より医療的ケア児が入学することに伴い、当該児童の休息や医療的処置を行うための静養室等を整備した。 ・三郷北小学校にバリアフリーの一環としてエレベーターを設置するとともに、児童数に対して不足している教室及び職員室の増築や老朽化の著しい外壁の補修工事を実施するため、「三郷北小学校大規模改造工事」の設計業務を委託した。 ・南畑幼稚園において、熱中症対策など保育環境を良好にするため、各保育室に空調設備を整備した。					
	②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H30年度	R1年度
	①学校、園改修等	補修・改修件数	件	59	53	H30 32,615,716 R1 226,266,510
③事業の課題	【継続的な課題】 ①町立小学校校舎の経年による劣化等に対応するため、バリアフリー化も含めた改修及び補修の実施。 ②幼稚園・小学校における空調設備の早期設置。 ③三郷北小学校の校舎は昭和57年に竣工して以来、大規模な改修等をしておらず、校舎壁面のコンクリート等にも経年劣化が見受けられ、併せて教室の絶対数も充分でないことから、対応策を講じることが急務である。					
	【新たな課題】 ①医療的ケア児や身体障がい児を受け入れるための施設改修及び受け入れ体制の充実が必要である。 ②南畑幼稚園の園舎の経年劣化等に対応するため、施設改修及び補修の実施。					

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①今後も両小学校において、経年に伴う改修・補修の更なる増加が見込まれることから、令和2年度中に策定予定の個別施設長寿命化計画に基づき、状況に応じて国や県の補助金等を活用し、計画的に整備する。 ②両小学校においてカーボン・マネジメント強化事業補助金を活用し、全普通教室に空調設備の設置を完了した。なお、幼稚園における空調整備については町単費で設置した。 ③令和2～3年度にかけてバリアフリー化の一環としてエレベーターを設置するとともに、校舎外壁工事及び教室棟・職員室増築工事を実施するため、当該工事の設計業務を委託した。					
	【新たな課題に対する改善方法の検討】 ①北小においては、令和2年度に入学する医療的ケア児に必要なケアを実施するため、静養室を設置し、非常勤の看護師を2名雇用した。また、身体に障がいを持つ児童等が校舎内を移動できるよう、令和2年度末までにエレベーター設置工事を実施予定。今後は、三小においても同様の施設整備等が必要となる。 ②緊急を要するものは逐次対応し、令和2年度中に策定予定の学校(園)施設の「個別施設長寿命化計画」に基づき、計画的に実施する。					

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し	(内容) <input type="checkbox"/> 予算拡充 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input checked="" type="checkbox"/> 事業拡大 <input type="checkbox"/> 事業縮小 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 休止・廃止 ・三郷北小学校における大規模改造工事を令和2年度から実施。 ・町立小学校におけるトイレの洋式化率100%を目指し、トイレ洋式化工事を令和元年度の繰り越し事業として令和2年度に実施する。 ・令和2年度中に町立学校(園)の個別施設長寿命化計画を策定し、当該計画に基づき、緊急性・優先性及び費用対効果を考慮した整備を進める。 ・GIGAスクール構想の早期実現に向け、校内LANが未整備の特別教室等における無線LAN整備工事を令和2年度中に完了する。 ・障がい等の有無にかかわらず、町立学校に入学を希望する児童生徒の受け入れのための施設及び環境整備を必要に応じて進めていく。

令和元年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	②教職員研修の充実	担当課名	教育総務課 南畑幼稚園	教育大綱位置づけ	Ⅱ「教育なら三郷町」
基本方向	子どもたちが健やかに成長できるよう、また、きめ細やかな指導で学力の向上を図るよう、県など関係機関との連携協力により研修を実施し、教職員の資質向上に努めます。				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	<p>○小中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者の教諭に対し、1年間の研修を実施して実践的指導力と使命感を養うとともに、幅広い知見を習得させる。県の研修に加え、生駒郡地教委主催で年2回研修会を実施する。 ・発達障害等で特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒に対する総合的な支援体制の充実を図るため、生駒市と生駒郡が合同で研修会を実施する。 ・日々発展するICT教育機器の整備に即応するため、ICTを活用した指導方法の研修会を必要に応じて実施する。 <p>○幼稚園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生駒郡幼児教育研究会・奈良県幼児教育研究会において保育内容の充実を図るため、各種研修会に参加。 ・幼稚園教員研修及び特別支援教育研修を随時行い、幼稚園教育と小学校教育との円滑なつながりを図り、幼小連携をより充実させるとともに、教員の資質向上を図る。 ・幼児期教育、小学校教育及び中学校教育との円滑なつながりを図り、幼保小中連携をより充実させるための研修会を行う。 ・中堅教諭に対し、1年間を通して教育活動及び幼稚園運営において中核的な役割を果たすために必要とされる資質の向上を図るため、県の研修に加え、担当課が10回の園内研修を計画し、実施する。 ・教員の実践的な資質向上を図るため、こども未来課の指導主事による教員の指導を実施する。 <p>◎県実施研修への参加【県費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県が実施する各種教職員研修に積極的な参加を促す。
---------	---

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	<p>○小中学校</p> <p>【初任者研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修対象者 4人 ①第1回生駒郡地教委主催初任者研修(参加者4人) <内容> 斑鳩町内のフィールドワークを通して、藤ノ木古墳・法隆寺等を見学し、斑鳩の歴史と文化について見識を深めた。 初任2年目の先輩の実践発表と斑鳩町教育長から長年の教師生活での多様な経験による「教員の心構え」について講話を聞き、各自の今後の取組みの参考にした。 ②第2回生駒郡地教委主催初任者研修(参加者3人) <内容> 授業力を向上させるための工夫等について自ら情報発信し、交流の重要性を体験的に学び、今後の授業実践に生かす取組みとした。また、校種別に「生徒指導上の課題と解決の方途」について、事例をもとにグループ討議し、課題解決の手立てについて意見交流した。 <p>【特別支援教育研修会】</p> <p>期日 令和元年8月27日(火) 場所 生駒市たけまるホール 内容 講演会「もしも願いが叶うなら」 ～かあちゃんとうちゃんの、おもしろ子育て奮戦記～ 講師 山口 歩 さん 三郷町からの参加人数：7人</p> <p>○幼稚園</p> <p>【生駒郡幼児教育研究会・奈良県幼児教育研究会】</p> <p>内容 全体研修(講演)、各種部会研修(実践事例による研究協議)、特別支援教育部会(研修講義など)及び公開保育を実施した。</p> <p>回数 全体研修：郡2回、県2回 部会研修：(実践検討部会) 郡4回、県3回 (放送教育部会) 郡3回、県3回 (特別支援教育部会) 郡2回、県3回 公開保育：郡1回、県1回</p> <p>【幼稚園教員研修】</p> <p>①新任研修(対象者1名) 内容 外部講師による保育内容の点検及び指導。 回数 年間10回</p> <p>②中堅教諭等資質向上研修(対象者1名(園長補佐)) 内容 外部講師の指導及び指導主事等による園運営等についての研修を実施した。 園内研修においては、指導主事等の助言を受けながら、園の課題を整理し、改善策を検討する。改善策の一つとして教育課程と園行事の見直しを実施することができた。 回数 年間 県5回 園内研修10回</p> <p>③職員研修 内容 保育終了後、教員の資質向上を図るため職員研修を実施し、保育内容等や環境づくりについての検討や教員の役割についての共通理解に努めた。 回数 年間を通じておおよそ月2～3回 ※その他、随時公開保育を行い、教員の指導内容の充実を図った。</p> <p>◎県実施研修への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修への参加 参加人数：3人 ・教職経験に応じたステージ別研修及び職務や今日的課題等に対応した研修への参加 参加人数：33人(幼稚園7人、三小6人、北小8人、三中12人)
---------	---

4 点検評価・課題(CHECK)

※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。

○小中学校
 ・生駒郡教委主催の初任者研修は、授業展開や教材・教具の工夫・ICT機器の活用、学級運営の仕方、児童生徒との接し方、保護者対応等の実践的なもので、日常の教育活動に活かされている。また、各自の経験・実践の情報を発信し交流することで、自己の取組みを振り返る重要な機会を得た。
 【成果指標①】
 ・特別支援教育研修会では、各校の特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援担当が積極的に参加し、コーディネーターの責務や子どもの感情を理解し、子どもとの関わり方を学んだ。【成果指標②】
 ・ステージ別研修には、33人が受講し、講座数は延べ52講座であった。【成果指標④】
 ・ICT教育研修については、機器のデモンストレーション及び指導方法の研修会を行い、ほぼ全教職員が参加。電子黒板や書画カメラの使い方を学んだ。【成果指標⑤】

○幼稚園
 ・生駒郡幼児教育研究会・奈良県幼児教育研究会では、各市町村の情報交換及び実践交流の場となり、研究協議の中から取組みの反省と評価ができた。【成果指標③】
 ・幼稚園教員、特別支援教育研修会では、保育内容について改善ポイントを見出すことができた。また、特別支援を必要とする幼児の対応について、令和元年度から実施した作業療法士による巡回相談を通じて支援方法や子どもの特性への理解を深めることができた。
 ・令和元年度からこども未来課に配置された指導主事による指導により、保育の進め方や子どものかかわり方、また家庭の状況に応じ、保護者への様々なアプローチの仕方などをより深く学ぶことができた。

○教員研修における人権教育
 ・教員自身の人権感覚・意識を高めるとともに、子どもたち一人ひとりを大切にす教育活動に役立てた。また、その他関係機関・団体の各種研修会にも参加した。

	事業名	成果指標名	単位	H30年度	R1年度	決算額(円)
②成果指標	①初任者研修	研修回数(町実施)	回	2	2	H30 R1
	②特別支援教育研修会・第3ブロック研修会	参加人数	人	21	24	H30 R1
	③生駒郡幼稚園教育研究会・奈良県幼稚園教育研究協議会	研修回数	回	24	24	H30 R1
	④ステージ別研修	参加人数	人	33	33	H30 R1
	⑤ICT教育研修	研修回数	回	3	3	H30 R1

【継続的な課題】
 ①幼保小中連携については、それぞれの校種の違いによる教育内容や指導方法等、子どもたちが学校生活の変化に対応できるよう、各校種相互の現状理解と適切な指導が教員に求められる。

【新たな課題】
 ①ICTを活用した小中一貫教育の導入に向けて、教員による電子黒板・タブレットPC等の機器の効果的な利用はもとより、子どもたち自らの機器の活用に係る適切な指導が教員に求められる。
 ②小学校における新学習指導要領初年度における英語及びプログラミング教育の推進。
 ③小中学校における道徳教育の充実。

5 改善方法・結果(ACTION)

【継続的な課題に対する改善方法及び結果】
 ①幼保小中連携については、保育園や幼稚園教育、小学校教育及び中学校教育の円滑なつながりを図るため、教員相互の情報共有及び意思疎通が重要である。また、研究授業等、校種を越えた研修などを通じて、子どもの段階的な成長を支援するとともに、それぞれの現場の違いや環境のギャップによる子ども達の戸惑いを軽減させるためのサポートができる体制の構築をするため、教員のスキルアップを図る。

【新たな課題に対する改善方法の検討】
 ①授業におけるICT機器の効果的な活用については、教員の個別のスキルに大きく左右されることから、レベルに応じた研修の実施を検討する。
 ②小学校の英語やプログラミングの指導については、教員によって指導方法や授業の進め方に差が生じないように、授業展開の方法や教材利用等の研修や中学校の英語教員との情報共有及び連携が必要である。
 ③道徳については、評価方法や基準・表現など教員間の共通理解と適切な評価方法の確立に向けた研修会等の開催を検討する。

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	※事業の方向性について、現状維持が見直しを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	<input type="checkbox"/> 見直し	(内容) <input type="checkbox"/> 予算拡充 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 事業拡大 <input type="checkbox"/> 事業縮小 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 休止・廃止
・昨今の教育に求められるニーズや大きな変革等、その多岐にわたる内容を的確に把握し、柔軟に対応できる教職員の育成とその資質向上を図る。 ・「小中一貫教育」の導入に当たり、諸課題の解消と各校教員間の共通認識を深め、効率的かつスムーズな導入を目指す。 ・幼稚園における教員の資質向上を図るため、各種研修への積極的な参加を促すと同時に、教職員の実情に応じた園内研修や検討会等の機会を積極的に設けていく。また、指導主事による指導の機会や特別支援教育の巡回相談を積極的に活用し、スキルアップを図り、日々の保育内容の検討・環境づくりへの取り組みを充実させる。		

令和元年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	③就園・就学の支援	担当課名	教育総務課 こども未来課	教育大綱位置づけ	I「子育てなら三郷町」
基本方向	・経済的理由により、教育の機会均等が損なわれることがないように、各種補助事業を実施し、保護者の経済的負担の軽減を図ります。				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	<p>◎小中学校就学援助【国庫補助事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済的な理由等によって、子どもたちの就学が妨げられることのないよう、学用品費や学校給食費などを援助する。 <p>◎幼稚園就園奨励費補助金【国庫補助事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者負担の軽減及び公立・私立幼稚園間の保護者負担の格差是正を図るとともに、幼稚園教育の普及充実に図るため、私立幼稚園への就園奨励費補助金を交付する。（令和元年10月より幼児教育無償化開始のため、令和元年9月をもって制度廃止） <p>◎育英振興助成金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内在住の中学校卒業生で、経済的な理由で高等学校等への進学が困難な生徒に対し、新入学に際して要した経費の一部を助成する。
---------	---

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	<p>◎小中学校就学援助【国庫補助】</p> <p>【要保護児童生徒就学援助費】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>認定者(人)</th> <th>支給対象者(再掲・人)</th> <th>就学援助費(円)</th> <th>国庫補助額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>三郷小学校</td> <td>15</td> <td>1</td> <td>26,039</td> <td>12,000</td> </tr> <tr> <td>三郷北小学校</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>25,034</td> <td>12,000</td> </tr> <tr> <td>三郷中学校</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>189,000</td> <td>92,000</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>21</td> <td>5</td> <td>240,073</td> <td>116,000</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">※令和元年度は、認定者全体のうち支給対象者は修学旅行費の支給対象者のみ</p> <p>【準要保護児童生徒就学援助費】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>認定者(人)</th> <th>就学援助費(円)</th> <th>給食費(円)</th> <th>援助費合計(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>三郷小学校</td> <td>52</td> <td>2,123,632</td> <td>1,927,240</td> <td>4,050,872</td> </tr> <tr> <td>三郷北小学校</td> <td>37</td> <td>1,673,854</td> <td>1,375,780</td> <td>3,049,634</td> </tr> <tr> <td>三郷中学校</td> <td>54</td> <td>2,721,879</td> <td>2,377,200</td> <td>5,099,079</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>143</td> <td>6,519,365</td> <td>5,680,220</td> <td>12,199,585</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎幼稚園就園奨励【国庫補助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内に在住し、私立幼稚園に就園する満3歳児及び3歳児から5歳児の保護者を対象に、所得に応じて補助金を交付。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>園児区分※</th> <th>受給者(人)</th> <th>就園奨励費(円)</th> <th>国庫補助額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満3歳児</td> <td>0</td> <td>0</td> <td rowspan="5" style="vertical-align: middle;">3,391,000</td> </tr> <tr> <td>3歳児</td> <td>55</td> <td>3,886,300</td> </tr> <tr> <td>4歳児</td> <td>38</td> <td>2,359,400</td> </tr> <tr> <td>5歳児</td> <td>63</td> <td>3,927,800</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>156</td> <td>10,173,500</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">※ 満3歳児：H28.4.2～H29.4.1生まれ 3歳児：H27.4.2～H28.4.1生まれ 4歳児：H26.4.2～H27.4.1生まれ 5歳児：H25.4.2～H26.4.1生まれ</p> <p>◎育英振興助成金</p> <p>新入学に際して保護者等が負担した経費（授業料を除く。）のうち、学校区分に応じて、公立は3万円、私立は5万円を上限として助成金を支給。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>学校区分</th> <th>認定者(人)</th> <th>助成額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公立</td> <td>21</td> <td>630,000</td> </tr> <tr> <td>私立</td> <td>2</td> <td>100,000</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>23</td> <td>730,000</td> </tr> </tbody> </table>	学校名	認定者(人)	支給対象者(再掲・人)	就学援助費(円)	国庫補助額(円)	三郷小学校	15	1	26,039	12,000	三郷北小学校	1	1	25,034	12,000	三郷中学校	5	3	189,000	92,000	合計	21	5	240,073	116,000	学校名	認定者(人)	就学援助費(円)	給食費(円)	援助費合計(円)	三郷小学校	52	2,123,632	1,927,240	4,050,872	三郷北小学校	37	1,673,854	1,375,780	3,049,634	三郷中学校	54	2,721,879	2,377,200	5,099,079	合計	143	6,519,365	5,680,220	12,199,585	園児区分※	受給者(人)	就園奨励費(円)	国庫補助額(円)	満3歳児	0	0	3,391,000	3歳児	55	3,886,300	4歳児	38	2,359,400	5歳児	63	3,927,800	合計	156	10,173,500	学校区分	認定者(人)	助成額(円)	公立	21	630,000	私立	2	100,000	合計	23	730,000
学校名	認定者(人)	支給対象者(再掲・人)	就学援助費(円)	国庫補助額(円)																																																																															
三郷小学校	15	1	26,039	12,000																																																																															
三郷北小学校	1	1	25,034	12,000																																																																															
三郷中学校	5	3	189,000	92,000																																																																															
合計	21	5	240,073	116,000																																																																															
学校名	認定者(人)	就学援助費(円)	給食費(円)	援助費合計(円)																																																																															
三郷小学校	52	2,123,632	1,927,240	4,050,872																																																																															
三郷北小学校	37	1,673,854	1,375,780	3,049,634																																																																															
三郷中学校	54	2,721,879	2,377,200	5,099,079																																																																															
合計	143	6,519,365	5,680,220	12,199,585																																																																															
園児区分※	受給者(人)	就園奨励費(円)	国庫補助額(円)																																																																																
満3歳児	0	0	3,391,000																																																																																
3歳児	55	3,886,300																																																																																	
4歳児	38	2,359,400																																																																																	
5歳児	63	3,927,800																																																																																	
合計	156	10,173,500																																																																																	
学校区分	認定者(人)	助成額(円)																																																																																	
公立	21	630,000																																																																																	
私立	2	100,000																																																																																	
合計	23	730,000																																																																																	

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	<p>※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就学援助の認定者は、小中学校合わせて全児童生徒1,692名中、認定者は164名(認定率9.7%)で、前年度(9.9%)と比較し、微減となった。また、支給額についても前年度比966,254円減となった。これは援助費目の中でも高額である修学旅行費の支給対象者数の減が主な理由と考えられる。【成果指標①】 ・ 令和元年度より、長年要望のあったPTA会費、また、国の要綱改正に伴い、卒業アルバム代を新たに就学援助対象費目とした。【成果指標①】 ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月は学校休業となり給食の実施はなかったが、家庭における昼食費に係る支援として3月分の就学援助費(学校給食費)を準要保護児童生徒世帯へ支給した。【成果指標①】 ・ 私立幼稚園就園奨励費の受給者数は、前年度より11名減の156名。私立幼稚園では預かり保育が実施されているものの、近年の共働き家庭の増加により保育園への入園希望者が増加していることが原因の1つと推測される。なお、受給者数の減及び幼児教育無償化が10月から開始したことにより半年分になったため、幼稚園就園奨励費の給付総額は前年度より大幅な減となった。【成果指標②】 ・ 育英振興助成金については、23名(公立21名・私立2名)の対象者に対し、制服等の高校等入学に要した費用の一部を助成。前年度より1名減かつ私立進学者が2名のみのため、支給総額は減となったが、対象者全員に上限額を支給した。【成果指標③】
-------------	---

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H30年度	R1年度	決算額(円)	
	①小中学校就学援助		認定者数	人	169	164	H30
認定率			%	9.9	9.7	R1	12,439,658
②私立幼稚園就園奨励費補助		受給者及び減免者数	人	167	156	H30	20,501,800
						R1	10,173,500
③育英振興助成金		認定者数	人	24	23	H30	791,108
						R1	730,000

③事業の課題	<p>【継続的な課題】</p> <p>①町立以外の小中学校へ通う児童・生徒の保護者の就学援助制度の認知。</p> <p>【新たな課題】</p> <p>①新型コロナウイルス感染症による減収世帯への就学援助の実施方法の検討。</p>
--------	--

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	<p>【継続的な課題に対する改善方法及び結果】</p> <p>①就学援助の制度については、町ホームページに掲載し、町立学校以外に通う児童生徒の世帯にも制度の周知に努めているが、未だ申請がない状況である。</p> <p>【新たな課題に対する改善方法の検討】</p> <p>①新型コロナウイルス感染症による減収世帯への就学援助を実施している他市町村の支給認定方法や国の通知を参考にし、実施方法及び支給要件等について検討が必要である。</p>
------------	--

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し	<p>(内容) <input checked="" type="checkbox"/>予算拡充 <input type="checkbox"/>予算削減 <input checked="" type="checkbox"/>事業拡大 <input type="checkbox"/>事業縮小 <input checked="" type="checkbox"/>手法見直し <input checked="" type="checkbox"/>休止・廃止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 育英振興助成金制度の認知定着に向け、就学援助受給世帯等、あらかじめ制度の対象となることが判明している世帯に対して申請勧奨を行う等、個別の対応により周知を徹底する。 ・ 幼児教育無償化制度が令和元年10月から始まり、幼稚園就園奨励費は同年9月分をもって制度廃止となった。 ・ 就学援助について、今後も引き続き、国の動向に合わせて就学援助の対象費目の充実を図る。また、新型コロナウイルスによる減収世帯等への支援の在り方についても検討を進め、必要とする世帯に支援が行き渡るように努める。

令和元年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	④特別支援教育の推進	担当課名	教育総務課	教育大綱位置づけ	Ⅱ「教育なら三郷町」
基本方向	・学校教育において、特別な支援を要する幼児・児童・生徒について、誰もがともに学べる「なかまづくり」の教育と体制の整備を進めます。				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	<p>○特別支援教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児・児童・生徒一人ひとりの教育ニーズを把握し、子どもたちの持っている力を高め、生活や学習上の課題を改善又は克服するため、それぞれに応じた適切な指導及び必要な支援を行う。 <p>○教育相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前の幼児を持つ保護者の不安や悩みに寄り添い、障がい等の状況に応じた適切な教育が受けられるよう教育相談を実施。 <p>○特別支援教育担当者連絡会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼・保・小・中学校の連携を強化し、情報共有や適切な就学指導方法を検討するため、定期的に担当者連絡会を開催。 <p>◎特別支援教育就学奨励費【国庫補助事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級在籍児童生徒の保護者に対し、その経済的負担の軽減を図るため、世帯の所得額等の条件を付して、対象者に学用品費や学校給食費などの一部を援助する。 ※小中学校就学援助の認定者は支給対象外。
---------	---

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	<p>○特別支援教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援を必要とする幼児・児童・生徒を支援するため、町費による臨時講師等（常勤・非常勤）を各学校に配置した。 【配置講師数】 <table> <tr><td>南畑幼稚園</td><td>1人</td></tr> <tr><td>三郷小学校</td><td>5人</td></tr> <tr><td>三郷北小学校</td><td>6人</td></tr> <tr><td>三郷中学校</td><td>3人</td></tr> <tr><td>合計</td><td>15人</td></tr> </table> <p>○教育相談の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前の幼児を持つ保護者を対象に、令和元年7月に鹿嶋町中央公民館において生駒郡合同の教育相談会を行った。 【相談人数】 <table> <tr><td>三郷小学校区</td><td>9人</td></tr> <tr><td>三郷北小学校区</td><td>12人</td></tr> <tr><td>合計</td><td>21人</td></tr> </table> <p>○特別支援教育担当者連絡会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の充実を図るため、小中学校の特別支援担当教員及び教育委員会事務局担当者間で情報交換と連携を図る場として平成21年度より設置している「特別支援教育担当者連絡会議」を定期的に開催した。（年間4回開催） <p>◎特別支援教育就学奨励費【国庫補助】</p> 【就学奨励費認定者数】 <table> <tr><td>三郷小学校</td><td>8人</td></tr> <tr><td>三郷北小学校</td><td>27人</td></tr> <tr><td>三郷中学校</td><td>13人</td></tr> <tr><td>合計</td><td>48人</td></tr> </table> <p>※令和元年度決算額：1, 730, 996円（補助額 771, 000円）</p> <table> <tr> <td>（内訳）三郷小学校</td> <td>218, 660円（補助額 106, 000円）</td> </tr> <tr> <td>三郷北小学校</td> <td>861, 905円（補助額 393, 000円）</td> </tr> <tr> <td>三郷中学校</td> <td>650, 431円（補助額 272, 000円）</td> </tr> </table>	南畑幼稚園	1人	三郷小学校	5人	三郷北小学校	6人	三郷中学校	3人	合計	15人	三郷小学校区	9人	三郷北小学校区	12人	合計	21人	三郷小学校	8人	三郷北小学校	27人	三郷中学校	13人	合計	48人	（内訳）三郷小学校	218, 660円（補助額 106, 000円）	三郷北小学校	861, 905円（補助額 393, 000円）	三郷中学校	650, 431円（補助額 272, 000円）
南畑幼稚園	1人																														
三郷小学校	5人																														
三郷北小学校	6人																														
三郷中学校	3人																														
合計	15人																														
三郷小学校区	9人																														
三郷北小学校区	12人																														
合計	21人																														
三郷小学校	8人																														
三郷北小学校	27人																														
三郷中学校	13人																														
合計	48人																														
（内訳）三郷小学校	218, 660円（補助額 106, 000円）																														
三郷北小学校	861, 905円（補助額 393, 000円）																														
三郷中学校	650, 431円（補助額 272, 000円）																														

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	<p>※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒は増加傾向にあることから、県の配置基準に加えて、町費による講師を各学校に配置。令和元年度は、三郷小学校に常勤5人、三郷北小学校に常勤6人、三郷中学校に常勤3人、南畑幼稚園には非常勤1人の計15人を配置した。 <p style="text-align: right;">【成果指標①】</p> <ul style="list-style-type: none"> 就学前教育相談では、保護者の就学に対する不安を解消するため、事務局と特別支援担当の教員が相談を行うことにより、園での生活の仕方や専門機関の紹介等、幼児の現状に応じ、対応した。また、令和元年度の相談件数は、前年度より5件減っているものの、前年度に続き20件を超えており、依然、件数は多い。主な相談内容としては、特別支援学級入級に係る相談が多かった。 【成果指標②】 特別支援担当者連絡会議を年間4回開催し、幼保小中学校間の情報交換・情報共有し、校種間の連携を図った。なお、会議の日程調整等が困難で毎回の参加者数にバラつきが大きかったため、会議の効率的な運営を図ったことにより、実施回数は前年度に比して減となった。【成果指標③】 特別支援教育就学奨励費の給付認定者は、特別支援学級入級児童生徒92名中4.8名(就学援助認定者8名を除く。)と、前年度に比べ2名増えているものの、認定率は52.2%であり、2年連続で減少。【成果指標④】
-------------	---

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H30年度	R1年度	決算額(円)
	①特別支援教育の推進	配置講師数	人	15	15	H30 40,723,610 R1 45,075,620
②教育相談	相談人数	人	26	21	H30 R1	
③特別支援教育担当者連絡会	開催回数	回	7	4	H30 R1	
④特別支援教育就学奨励費	認定者数	人	46	48	H30 1,833,305 R1 1,730,996	

③事業の課題	<p>【継続的な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年々、特別支援を必要とする幼児・児童・生徒が増加しているとともに、個別の教育的ニーズも多様化している。また、授業内容や子どもたちの体調等により、別室において適切な支援が必要となるケースが増えてきていることから、個々の対応を検討する必要がある。 ②就学前教育相談については、生駒郡内においても年々件数が増加しており、生駒郡合同教育相談の実施会場を増設する状況になってきていることから、町において随時相談できる体制構築の検討が必要である。 ③医療的ケア児又は重度障がい児を有する児童・生徒が町立学校への入学を希望するケースは今後増加することが考えられるため、ハード・ソフト両面での受け入れ体制を構築していく必要がある。 <p>【新たな課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①医療的ケア児や重度障がい児に対応するため、教職員等の専門知識やスキルの向上が必要がある。
--------	---

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	<p>【継続的な課題に対する改善方法及び結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教育と福祉など行政分野を越えた切れ目ない連携を一層推進し、担当者間の情報共有はもとより、指導・支援する教員の確保及び教員の専門性を向上させ、多様なニーズに応え得るきめ細かな体制を構築する。 ②就学前教育相談のみならず、随時、複数の部署において相談を受けることのできる体制を確実なものにするため、関係部署との連携をさらに強化する。 ③児童生徒ひとり一人の様々な状況に応じた適切な対応と本来あるべき支援の方法について、関係各機関も含めて協議・検討する。また、医療的ケア児については、支援の方法の一つとして看護師の雇用を検討し人材を確保する。 <p>【新たな課題に対する改善方法の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①特別支援学校と連携し、定期的な情報共有はもとより、教員が必要な知識やスキルを取得できる機会をつくとともに、学校医など医療関係者との連携強化を図る。
------------	--

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持 <p>※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)</p> <input checked="" type="checkbox"/> 見直し (内容) <input checked="" type="checkbox"/> 予算拡充 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input checked="" type="checkbox"/> 事業拡大 <input type="checkbox"/> 事業縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 休止・廃止
	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期からのケアも重要であることから、乳幼児・児童・生徒及びその保護者等のニーズはもとより、一人ひとりの状況、また、その年齢に応じた対応ができる総合的なサポート体制を関係部署及び各機関の相互協力のもと確立する。 ・障がいの有無や状況に関わらず、町立学校に入学するすべての子どもたちが共に学び、育つことができるよう、ハード・ソフト両面での体制整備を進める。 ・南畑幼稚園において特別支援を要する子どもたちに対する適切な指導や対応を行うため、指導主事による指導や特別支援教育の巡回相談を積極的に活用していく。

令和元年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑤情報・国際教育の推進	担当課名	教育総務課	教育大綱位置づけ	Ⅱ「教育なら三郷町」
基本方向	<ul style="list-style-type: none"> ・校内におけるLAN整備を進めるとともに、教育用コンピュータの充実に努めます。 ・生きた外国語の学習や異文化への理解を養うため、ALT制度の充実に努めます。 				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	<p>○校内LAN・教育用コンピュータ・校務支援システムの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度に各小中学校において更新整備を行った校内ネットワークを有効活用し、効率的な教育活動を行うため、国が示すガイドラインに提示されている校内ネットワークの3分割化(①校務系ネットワーク②校務外部接続系ネットワーク③学習系ネットワーク)の実現を図る。 ・働き方改革が喫緊の課題となっている教職員について、ICTを活用した校務事務簡略化のため、奈良県が県域で導入を進める統合型校務支援システムの早期導入。 ・ICTの効率的な活用を図るとともに、小中一貫教育の早期導入を図るため、授業支援システム・遠隔通信システムを導入する。また、過疎化の進む野迫川村立中学校と遠隔授業を実施。 ・国の補助金を活用し、国のGIGAスクール構想に基づく「一人一台端末」の整備の早期実現を図る。 <p>○ALT (Assistant of Language Teacherの略。学校で外国語授業の補助を行う外国語指導助手) 派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きた外国語の学習や異文化に対する理解を養うため、各小中学校へALTの派遣を行う。 ・幼児期からの国際理解や英語教育を図るため、南畑幼稚園におけるALTとの交流会を行う。
---------	--

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	<p>○ICT機器設置状況</p> <p>平成28年度より3ヵ年計画で情報端末・電子黒板等のICT機器の整備を進め、現状では3人に1台の情報端末及び普通教室に1台の電子黒板の整備が完了している。</p> <p>また、平成30年度には、セキュリティ面に考慮して大規模な校内ネットワーク環境の更新を実施した。</p>																																																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種類</th> <th colspan="3">設置台数(台)</th> <th rowspan="2">計</th> <th rowspan="2">※児童生徒3人に1台</th> </tr> <tr> <th>三郷小学校</th> <th>三郷北小学校</th> <th>三郷中学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報端末(タブレット)</td> <td>160</td> <td>220</td> <td>220</td> <td>600</td> <td></td> </tr> <tr> <td>電子黒板</td> <td>25</td> <td>29</td> <td>22</td> <td>76</td> <td></td> </tr> <tr> <td>書画カメラ</td> <td>25</td> <td>29</td> <td>22</td> <td>76</td> <td></td> </tr> <tr> <td>校務用PC(ノート)</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>150</td> <td>※教員1人1台</td> </tr> <tr> <td>学習用PC(デスクトップ)</td> <td>35</td> <td>38</td> <td>42</td> <td>115</td> <td></td> </tr> <tr> <td>校務系サーバ</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>学習系サーバ</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類	設置台数(台)			計	※児童生徒3人に1台	三郷小学校	三郷北小学校	三郷中学校	情報端末(タブレット)	160	220	220	600		電子黒板	25	29	22	76		書画カメラ	25	29	22	76		校務用PC(ノート)	50	50	50	150	※教員1人1台	学習用PC(デスクトップ)	35	38	42	115		校務系サーバ		1		1		学習系サーバ		1		1						
	種類		設置台数(台)					計	※児童生徒3人に1台																																																
		三郷小学校	三郷北小学校	三郷中学校																																																					
	情報端末(タブレット)	160	220	220	600																																																				
	電子黒板	25	29	22	76																																																				
	書画カメラ	25	29	22	76																																																				
	校務用PC(ノート)	50	50	50	150	※教員1人1台																																																			
	学習用PC(デスクトップ)	35	38	42	115																																																				
	校務系サーバ		1		1																																																				
学習系サーバ		1		1																																																					
<ul style="list-style-type: none"> ・情報端末、電子黒板及び書画カメラについては、平成28年度より3ヵ年計画で導入。 ・その他、ICT機器については、平成30年度に各校の校内ネットワークの整備と同時に導入。 																																																									
<p>○ICT支援員</p> <p>今後、教育現場においてICT機器の活用が基本となることに伴い、その活用方法の助言や運用管理のため事業者と契約を行い、ICT支援員を年間を通じて配置。</p>																																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="4">単位:日</th> </tr> <tr> <th></th> <th>三郷小学校</th> <th>三郷北小学校</th> <th>三郷中学校</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣日数</td> <td>52</td> <td>52</td> <td>60</td> <td>164</td> </tr> </tbody> </table>		単位:日					三郷小学校	三郷北小学校	三郷中学校	計	派遣日数	52	52	60	164																																										
	単位:日																																																								
	三郷小学校	三郷北小学校	三郷中学校	計																																																					
派遣日数	52	52	60	164																																																					
<p>○ALT派遣</p> <p>・年間を通じて三郷中学校に1名、各小学校及び幼稚園に1名、計2名のALTを派遣し、英語学習・異文化理解等の活動を実施。活動時間等は下表のとおり。</p>																																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>対象</th> <th>クラス数<A></th> <th>年間時間数(時間)</th> <th>合計時間数(時間)<A>×</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">三郷中学校</td> <td>1年生</td> <td>5</td> <td>35</td> <td rowspan="3">560</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>5</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>6</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">三郷小学校</td> <td>3年生</td> <td>3</td> <td>15</td> <td rowspan="4">265</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>3</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>5年生</td> <td>3</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>6年生</td> <td>2</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">三郷北小学校</td> <td>3年生</td> <td>4</td> <td>15</td> <td rowspan="4">365</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>4</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>5年生</td> <td>4</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>6年生</td> <td>3</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">南畑幼稚園</td> <td>年中</td> <td>1</td> <td>2</td> <td rowspan="2">7</td> </tr> <tr> <td>年長</td> <td>1</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>44</td> <td>312</td> <td>1,197</td> </tr> </tbody> </table>		対象	クラス数<A>	年間時間数(時間)	合計時間数(時間)<A>×	三郷中学校	1年生	5	35	560	2年生	5	35	3年生	6	35	三郷小学校	3年生	3	15	265	4年生	3	15	5年生	3	35	6年生	2	35	三郷北小学校	3年生	4	15	365	4年生	4	15	5年生	4	35	6年生	3	35	南畑幼稚園	年中	1	2	7	年長	1	5	合計		44	312	1,197
	対象	クラス数<A>	年間時間数(時間)	合計時間数(時間)<A>×																																																					
三郷中学校	1年生	5	35	560																																																					
	2年生	5	35																																																						
	3年生	6	35																																																						
三郷小学校	3年生	3	15	265																																																					
	4年生	3	15																																																						
	5年生	3	35																																																						
	6年生	2	35																																																						
三郷北小学校	3年生	4	15	365																																																					
	4年生	4	15																																																						
	5年生	4	35																																																						
	6年生	3	35																																																						
南畑幼稚園	年中	1	2	7																																																					
	年長	1	5																																																						
合計		44	312	1,197																																																					

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	<p>※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。</p> <p>◎ICT機器の整備状況 ・全国的にICT機器を活用した教育が主流になる中、本町においても更なるICT教育の推進を図るため、本年度は遠隔授業支援システムの構築を行った。併せて、各小中学校へ遠隔授業用に撮影カメラ6台、マイク9台及びスピーカー3台を導入。なお、平成28年度より3ヵ年計画で調達を進めた、3人に1台の情報端末及び普通教室に1台の電子黒板については、整備が完了している。【成果指標①】</p> <p>◎ICT教育の推進 ・ICT支援員は、ICTを活用した授業の補助や授業展開についての助言等、幅広いサポート業務を行っている。そのため、ICTに対し苦手意識のある教員でも、少しずつ活用頻度が増加していることから、派遣日数を増加。また、教職員へ使用方法についてデモンストレーションを実施し、活用場面等について意見交換を行った。 教員の活用頻度が上がることで、児童生徒がICTに触れる機会も多くなり、子どもたちがタブレットを使用する授業を楽しみにする様子が見て取れる。【成果指標②】</p> <p>◎ALT派遣 ・前年度に引き続き令和元年度においても、小学校5・6年生だけでなく小学校3・4年生についても年間15時間の派遣時間を確保した。子どもたちの間で「ハロー」「グッドモーニング」等の英語が日常的に使われていることから、英語という言語が浸透してきていることが窺える。なお、三郷小学校において前年度に比して授業時間数が減少している理由は、学級数の減少による。 ・中学校に1名、幼稚園及び小学校に1名の計2名のALTを派遣し、令和元年度は年間計1,198時間の授業を実施した。【成果指標③】</p>
-------------	---

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H30年度	R1年度	決算額(円)
	①ICT教育の推進		ICT機器新規導入数 小中学校合計	台	168	18
②ICT支援員		派遣日数	日	152	164	H30 4,104,000 R1 4,469,000
③ALT派遣		ALTによる授業時間 幼稚園・小中学校合計	時間	1,233	1,198	H30 7,900,000 R1 7,701,540

③事業の課題	<p>【継続的な課題】</p> <p>①各タブレットのHDDの容量不足により、大容量のデジタル教科書等がインストールできない等、活用枠に限界がある。</p> <p>②著しいバッテリーの消耗等、過去に導入したICT機器に経年劣化が見受けられるようになってきている。</p> <p>③教職員の情報セキュリティへの意識改革。</p> <p>④小学校教職員の外国語指導力の向上。</p> <p>【新たな課題】</p> <p>①新型コロナウイルス感染症拡大等による休校時の学習保障の一環として、遠隔授業の体制確立が必要となる。</p>
--------	--

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	<p>【継続的な課題に対する改善方法及び結果】</p> <p>①学校と連携し、限られた容量でも存分に効果が出せるようなデジタル教材を選定するよう努める。</p> <p>②機器更新及び修理費の予算措置を検討する。</p> <p>③外部メモリ等の取扱方法など、情報セキュリティ研修会の開催や学校管理職と連携し、教職員の情報管理に係る意識改革の徹底を継続して行う。</p> <p>④教職員がALT講師から発音指導等を受けるなど、教職員が主体となって児童に外国語を指導できるようスキルアップを図ると共に、ALTの配置増員を検討する。</p> <p>【新たな課題に対する改善方法の検討】</p> <p>①中長期にわたる休校時に在宅オンライン授業を実施できるよう、タブレットの整備及び学校現場におけるオンライン授業実施体制の確立を早期に実施する。</p>
------------	---

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持	※事業の方向性について、現状維持が見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し	<p>(内容) <input checked="" type="checkbox"/>予算拡充 <input type="checkbox"/>予算削減 <input checked="" type="checkbox"/>事業拡大 <input type="checkbox"/>事業縮小 <input type="checkbox"/>手法見直し <input type="checkbox"/>休止・廃止</p> <p>・奈良県教育委員会が整備する統合型校務支援システムを導入するため、本町ネットワーク構成を検討する。</p> <p>・GIGAスクール構想の実現にむけ、必要経費の予算化に努める。</p> <p>・令和2年度からの小学校における英語教科化に伴い、ALT派遣日数の増加が必須となることから、ALT派遣事業の拡充と充実に努める。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症拡大等による休校時のオンライン授業実施体制の早期確立とともに、不登校や長期欠席の児童生徒を対象としたオンライン授業実施についても検討する。</p>

令和元年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑥いじめ・不登校の対策	担当課名	教育総務課	教育大綱位置づけ	Ⅱ「教育なら三郷町」
基本方向	・専門機関によるメンタルヘルス相談や中学校への心の相談員の配置による「いじめ」や不登校児童生徒の早期発見・早期指導の実施を継続します。 ・教職員経験者など地域の人材の参加を得ながら、多様な教育の展開ができるよう、広域的な連携を含めた支援のあり方を検討します。				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	<p>いじめ・不登校対策として、奈良県が実施するスクールカウンセラー事業を活用しながら、町独自で「心の相談員」を配置するとともに、専門機関にメンタルヘルス相談業務を委託し、児童生徒の悩みに対して、適切かつ迅速に対応し、児童生徒が安心して学習に取り組むことができるよう相談体制の充実を図る。</p> <p>◎スクールカウンセラー活用事業【県費】 いじめや不登校などの対策として、学校におけるカウンセリング機能を強化するため、臨床心理士などの資格を持ったスクールカウンセラーを中学校に配置する。</p> <p>○心の相談員 生徒の悩み・不安・ストレスに対し、気軽にカウンセリングできる「心の相談員」を中学校に配置する。</p> <p>○メンタルヘルス相談 幼児、児童及び生徒とその保護者や教員等も含め、メンタル面での相談業務を専門機関に委託し、健やかな心身の保持増進に努める。</p> <p>○不登校対策連絡会 町立の小中学校における不登校問題を総合的に検討し、不登校の防止及び登校を促す指導に努め、児童及び生徒の健やかな育成を推進する。</p>
---------	---

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	<p>◎スクールカウンセラー活用事業【県費】 ・三郷中学校へ1人配置 年間勤務日数 17日 相談ケース数 ①児童生徒：25回 ②保護者 ：0回 ③教職員 ：0回 合 計 ：25回 主な相談内容 不登校への対応、学校生活、友人関係など ※児童生徒へのカウンセリングのほか、教職員などへの助言。</p> <p>○心の相談員 ・三郷中学校へ1人配置 年間勤務日数 105日 相談ケース数 342回 主な相談内容 不登校問題、学校生活全般、本人に関わる問題など ※その他、全校生徒を対象にこころと生活等に関するアンケートを実施。</p> <p>○メンタルヘルス相談 ・園児、児童生徒、保護者及び教職員の相談に対応するため、ハートランドしぎさんに相談業務を委託し、専門機関による相談を実施。 相談ケース数 ①園児児童生徒：38回 ②保護者 ：48回 ③教職員 ：78回 合 計 ：164回 ※延べ回数で計上。</p> <p>○不登校対策連絡会 ・不登校の児童生徒の実態把握と情報の共有、その後の現況報告並びに対応について協議・検討を行った。 年間開催回数 12回</p> <p>○不登校を語る保護者の集い（ブリーズ） ・令和元年度は生駒郡教育長会の事業として2回実施。天理大学大学院教授から、保護者に様々な助言がなされた。 主な内容 ・不登校児童の保護者の交流及び悩みの共有。 ・不登校児童の保護者へのアドバイス。 参加人数 保護者13人、教員5人 ※延べ人数</p>
---------	---

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	<p>※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめや不登校、その他、児童生徒の抱える問題に対して、引き続き下記の事業を継続実施し、一人ひとりの状況に応じた相談を実施。 <ul style="list-style-type: none"> ①専門的なカウンセリングができるスクールカウンセラーの配置 <ul style="list-style-type: none"> →前年度に比して相談回数が増加。これは、令和元年度は平成30年度と同一のカウンセラーが配置されたため、継続的な関わりをもちやすくなったためと考えられる。【成果指標①】 ②生徒の悩みを気軽に相談できる「心の相談員」の配置 <ul style="list-style-type: none"> →中学校に配置している心の相談員による相談日数は前年度より減少しているものの、回数は大幅に増加している。理由としては、仮設校舎時は校舎から離れた棟に相談室があったが、新校舎になり相談室が同一校舎内にできたことから気軽に足を運びやすくなったためと推測される。【成果指標②】 ③専門機関での相談を行うため、メンタルヘルス相談業務の委託（ハートランドしぎさん） <ul style="list-style-type: none"> →県からのスクールカウンセラーの配置がない各小学校においては、メンタルヘルス相談事業によりハートランドしぎさんの臨床心理士による巡回相談を行っている。教職員からの紹介の他、学期毎に巡回相談の日程について配布し、各保護者からも相談できるような体制をとっている。令和元年度の傾向として児童生徒からの相談が大幅に増加しており、特に小学校高学年の児童による相談件数が多数を占めている。【成果指標③】 中学校において、全校生徒を対象に「こころとからだの健康チェック」と題して、アンケートを年2回実施。アンケートの結果、ストレスが高いと判断される生徒に対し、担任のフォローアップ及び相談室との連携等を行った。全体結果としては、自己肯定感・学校適応・家庭適応・こころの状態・発達偏りのすべての項目において平均的な結果となっており、相談回数は増えているものの、基本的には生徒の状態が安定していることが窺える。 「不登校対策連絡会」では、不登校の児童及び生徒の実態把握、指導体制の整備及び家庭との連携強化について、引き続き協議及び検討を行った。特に小学校における不登校児童数は減少傾向にある。【成果指標④】
-------------	--

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H30年度	R1年度	決算額(円)
	①スクールカウンセラー（県費）	相談回数	回	20	25	H30 R1
②心の相談員（町費）	相談回数	回	288	342	H30 R1	2,109,245 1,905,760
③メンタルヘルス相談	相談回数	回	120	164	H30 R1	570,000 570,000
④不登校対策連絡会	不登校児童生徒数	人	10	12	H30 R1	2,581,682 3,679,012

③事業の課題	<p>【継続的な課題】</p> <p>①不登校児童生徒数に対し、「不登校を語る保護者の集い」の参加者数が少なく、不登校児童生徒の保護者が孤立化している可能性がある。</p> <p>【新たな課題】</p> <p>①これまで不登校傾向になかった子どもたちが、人間関係等のストレスなどにより、突然、不登校に転じるケースなどの対応。</p>
--------	--

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	<p>【継続的な課題に対する改善方法及び結果】</p> <p>①保護者に対するサポート方法を具体化するとともに、「不登校を語る保護者の集い」の一定の効果をアピールできるよう内容の充実を図る。</p> <p>【新たな課題に対する改善方法の検討】</p> <p>①子どもたちがおかれている状況や不安を早期に見極め、不登校に転じる兆候が見える前に、心のケア及び対応が必要となる。引き続き、不登校支援担当の指導主事の指導及び不登校対策連絡会における情報共有及び協議が不可欠である。</p>
------------	--

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	<input type="checkbox"/> 見直し	(内容) <input type="checkbox"/> 予算拡充 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 事業拡大 <input type="checkbox"/> 事業縮小 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 休止・廃止
<p>・今後も不登校問題をはじめ児童生徒のさまざまな課題に対応するため、相談体制の充実を図るとともに、状況に応じてスクールソーシャルワーカー等の活用も行っていく。</p> <p>・様々なケースに対応すべく幼少期からのケアも考慮し、保・幼・小・中及び関係部署や各機関との更なる連携強化を図る。</p>		

令和元年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑦地域の教育力の向上	担当課名	教育総務課 生涯学習課	教育大綱	I「子育てなら三郷町」 II「教育なら三郷町」
基本方向	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校が協力しながら、地域の文化や人材を活かした体験学習を継続します。 ・まち全体が学びの場となるまちづくりをめざして、子どもたちの学習に提供できる場所や資源などの掘り起こしとネットワークの体制強化を図ります。 ・学校の環境美化や緑化推進活動などについて、各種団体や地域ボランティアの参加協力を得られるように体制の構築を図ります。 				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	<p>◎子ども人権学習支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化や核家族化の進行、就労形態の多様化及び家庭や地域の子育て意識の低下など、子どもを取り巻く環境の変化を踏まえ、放課後の居場所作り及び子どもの様々な活動を支援する事業を実施し、地域ぐるみの教育活動の推進を図る。 ・各小中学校において、地域指導員の指導のもと、和太鼓、手話コーラス、ゲートボールなど様々な体験活動を展開する。 <p>◎学校支援地域本部事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクール設立を視野に入れ、学校・家庭・地域が一体となって、地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えることを目的に、学校が必要とする活動に関わるボランティアを地域から募り、学校における環境整備や教育活動の支援の更なる充実を図る。 <p>◎上記2事業が県補助事業（学校・地域パートナーシップ事業）の対象であることから、本補助制度を活用し、本町独自の各種事業を継続的に実施。</p>
---------	---

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	◎子ども人権学習支援事業					
	活動名称	学校名	登録人数	実施回数	活動内容	担当課
	どんどん和太鼓	三郷中学校	12人	23回	和太鼓の演奏	生涯学習課
	韓国語を学び隊	三郷中学校	9人	8回	韓国語の習得(言語から異文化理解)	教育総務課
	多聞クラブ	三郷小学校	7人	14回	ゲートボール体験	教育総務課
	ふれあいクラブ	三郷小学校	29人	15回	和太鼓の演奏	教育総務課
	親子で遊び隊	三郷小学校	18人	1回	デイキャンプ	教育総務課
			34人	1回	凧作り※北小「つながり学級」合同	教育総務課
	にこやかクラブ	三郷北小学校	18人	12回	手話コーラス	教育総務課
	つながり学級	三郷北小学校	37人	6回	軽スポーツ、天体観測、ものづくりなど	生涯学習課
<p>※各活動の指導において、地域住民や各種団体の協力を継続的に得ることができていることから、活動の趣旨について指導者側へも浸透している。</p> <p>※各種活動において、毎年、継続参加する児童生徒も増えており、仲間同士で教えあう姿も見られる。</p>						
◎学校支援地域本部事業						
〈主な活動実績〉						
学校名	活動内容					
三郷小学校	緑化推進活動、朝の登校見守り、運動会準備、卓球クラブ支援、図書支援、新1年生の下校安全見守り、本の読み聞かせ、昔遊び、英語学習支援、校区探検、家庭科実習(被服・調理)支援、田植え・稲刈り体験補助、音楽会楽器指導補助、平和学習支援、さつま芋栽培、凧作り体験補助など					
三郷北小学校	緑化推進活動、花壇整備、わくわく農園・ケーブルカーの開放、施設管理、図書支援、新1年生の下校安全見守り、昔遊び、本の読み聞かせ、書道学習支援、校区探検、和楽器の鑑賞・体験、家庭科実習(被服・調理)支援、田植え・稲刈り体験補助、平和学習支援、プール安全監視、昔の暮らし学習、図書館見学学習、卒業感謝フィールドワーク、マラソン大会補助、凧作り体験補助など					
三郷中学校	家庭科実習(被服)支援、図書支援など					
〈学校支援ボランティア登録人数〉						
計：246人(前年度比13人増)						
〈その他〉						
内容	開催場所	開催日	参加人数			
天体観測会	保健センター前	9月6日(金)	37人			
ボランティア給食会	三郷小学校	1月17日(金)	28人			
	三郷北小学校	1月28日(火)	22人			
<p>※天体観測会は、学校支援ボランティア間の交流及び情報交換の場として実施。</p> <p>※給食会は、学校支援地域本部事業「昔遊び」と日程を合わせ、学校支援ボランティアと子どもたちとの交流も目的に実施。</p>						

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	<p>※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。</p> <p>◎子ども人権学習支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方や各種団体の指導の下、世代間の交流を図り、子ども達が日頃経験できない様々な活動を通して仲間とともに協力することの大切さや達成する喜びを学んだ。また、令和元年度は、中学生を対象に新規講座として韓国語講座を開講。グローバル思考の醸成及び異文化理解への機会となった。しかしながら、親子参加型の活動に係る参加者が総体的に減少しており、背景としては共働き家庭の増加も要因の一つと考えられる。【成果指標①】 <p>◎学校支援地域本部事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの新規登録者数は、例年、学生登録者の学校卒業に伴う脱退等により新規登録数と脱退数が相殺されるが、着実に登録者数は増加しており、令和元年度は前年度比13名の増となった。また、参加延べ人数については前年度から倍近く増加しているが、主な理由の一つとしては、近年の子どもを巻き込む事件等の増加を受け、見守りボランティアの数が急増したものと思われ、地域における見守り意識の高まりが顕著に表れている。【成果指標②】 ・県の補助金(学校・地域パートナーシップ事業)を有効に活用し、様々な事業を積極的に実施した。 ・多くのボランティアの参加の下、両小学校において「古典音楽鑑賞会」、「田植え」、「法被作り」等、様々な活動を実施。これらの事業は、例年、子どもたちにとって充実した貴重な体験授業となっている。 ・多忙を極める教職員だけでは手が回らない校内花壇の整備や草刈り等の環境整備についてもボランティアに積極的に対応いただいていることで、学校からも感謝の言葉を聞いている。
-------------	--

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H30年度	R1年度	決算額(円)
	②学校支援地域本部事業	①子ども人権学習支援事業	参加人数(延べ人数)	人	1,468	1,085
ボランティア登録人数			人	233	246	H30 858,480
ボランティア参加人数(各学校計・延べ人数)		人	1,545	2,974	R1 941,777	

※上記②の参加人数については、日常的なボランティア活動を含まない。

③事業の課題	<p>【継続的な課題】</p> <p>①『子ども人権学習支援事業』…参加人数が少ない講座の募集方法及び魅力ある講座内容の検討。</p> <p>②『子ども人権学習支援事業』…活動後の児童の送迎に係る運転業務をシルバー人材センターに委託しているが、高齢等の理由からシルバー人材センターでの対応が難しくなっている。</p> <p>③『学校支援地域本部事業』…学校支援ボランティアの登録人数と実稼働人数との乖離。</p> <p>④『学校支援地域本部事業』…ボランティアの高齢化に伴う体力的な問題から、今後、活動内容の縮小が懸念される。</p>
	<p>【新たな課題】</p> <p>①コミュニティスクールを視野に入れた『子ども人権学習支援事業』・『学校支援地域本部事業』両事業の連携と運営</p>

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	<p>【継続的な課題に対する改善方法及び結果】</p> <p>①『子ども人権学習支援事業』…講座の内容によっては毎年引き続き参加している児童・生徒も多く、講座を本当に楽しんでいる姿がうかがえるが、今後は多くの子どもたちが「参加したい」と思える講座内容の見直しや新規に企画することも検討する。また、令和元年度は中学校新校舎が完成したこと等により、奈良学園大学構内における講座の開講継続が困難な状況となったが、今後も奈良学園大学の協力を得て、発展的かつ魅力的な講座の展開を図りたい。</p> <p>②『子ども人権学習支援事業』…送迎業務に対応可能な事業者の模索もしくは教育委員会事務局職員による対応など、子どもたちの安全確保を第一に対応を検討する。</p> <p>③『学校支援地域本部事業』…各校ボランティアコーディネーターの協力を得て、名簿の加除整理を行う。また、ボランティア活動から離れたつある登録者へも、各種ボランティア活動の案内を配布し、やりがいの感じられる、かつ、少しでも参加しやすい環境を整えるよう努める。</p> <p>④『学校支援地域本部事業』…近年、多様な教育活動が求められる学校現場において、地域ボランティアの協力は必須であることから、ボランティアの長期的な活動の継続が必要となる。ボランティア一人ひとりが事業効果を実感できる事業を展開することで、幅広い年齢層の積極的な参加を促し、活発かつ継続的な事業展開を図る。</p>
	<p>【新たな課題に対する改善方法の検討】</p> <p>①各種事業に係る人材確保及び各地域との更なる連携強化を図ることで、コミュニティスクールの早期導入を目指す。</p>

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <p>※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)</p>
	<input type="checkbox"/> 見直し (内容) <input type="checkbox"/> 予算拡充 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 事業拡大 <input type="checkbox"/> 事業縮小 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 休止・廃止

「子ども人権学習支援事業」及び「学校支援地域本部事業」両事業において、地域と学校との連携を密にし、多くの参加者を獲得できる事業展開に努める。

令和元年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑧安全・安心の学校づくり	担当課名	教育総務課	教育大綱	Ⅱ「教育なら三郷町」
基本方向	<ul style="list-style-type: none"> 学校と地域の連携を深め、「子ども見まもり隊」をはじめとした地域ぐるみの見守り活動の展開を支援し、情報交換の場の設置を図ります。 子どもの安全を守るため、パトロールや巡視などの対策を継続するとともに、不審者情報メールの配信先を拡充し、万が一の際にも迅速に対応できる体制の整備を図ります。 園児・児童に対する防犯・交通安全教室を開催し、自ら身を守ることができる教育を進めます。 				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども情報ネットさんごう <ul style="list-style-type: none"> 子どもの安全確保を目指し、不審者情報、下校時刻の変更及び休校情報等を登録者にメール配信する。 ○さんごう子ども見まもり隊 <ul style="list-style-type: none"> 学校と地域の連携により、自治会を中心とした住民ボランティアの方々にご協力いただき、登下校時の通学路で見守りを行う。 ボランティアの見守りに併せて、小中学校の登下校時に安全巡視員を通学路に配置(シルバー人材センター委託)し、地域における見守りの必要性を啓発し、ひとりでも多くの目で見守ることで、児童生徒の安全確保を図る。 ○青色防犯パトロール <ul style="list-style-type: none"> 小中学校の下校時にあわせて、町内を巡視する青色防犯パトロールを実施する。 ○防犯・交通安全教室 <ul style="list-style-type: none"> 警察の協力により、小学校及び幼稚園において、防犯・交通安全教室を開催する。 ○子ども110番の家(環境政策課) <ul style="list-style-type: none"> 子どもが身の危険を感じたとき、また、被害に遭ったとき、子どもを保護し関係機関へ連絡するなどの子どもの安全確保はもとより、「子ども110番の家」の旗を掲げることで犯罪の抑制効果も期待できる。
---------	--

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	○子ども情報ネット配信状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th>不審者内容</th> <th>配信件数</th> <th>うち町内件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>声掛け</td> <td>19</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>つきまとい</td> <td>10</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>露出</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>痴漢</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>盗撮</td> <td>6</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>傷害・犯罪</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>不審電話</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>12</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>52</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>	不審者内容	配信件数	うち町内件数	声掛け	19	2	つきまとい	10	1	露出	1	0	痴漢	4	1	盗撮	6	2	傷害・犯罪	0	0	不審電話	0	0	その他	12	4	合計	52	10	<p>【配信内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 三郷町及び近隣町で発生した子どもに関わる事件や不審者情報を登録者へメール配信する。 <p>【メール登録人数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童や生徒の保護者、各種団体・関係機関の関係者など計1048人。(令和元年3月末現在)
	不審者内容	配信件数	うち町内件数																														
声掛け	19	2																															
つきまとい	10	1																															
露出	1	0																															
痴漢	4	1																															
盗撮	6	2																															
傷害・犯罪	0	0																															
不審電話	0	0																															
その他	12	4																															
合計	52	10																															
○さんごう子ども見まもり隊	<p>【見まもり隊登録団体及び登録者数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>登録団体の種類</th> <th>団体数</th> <th>登録者数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自治会等</td> <td>13</td> <td>182</td> </tr> <tr> <td>学校関係</td> <td>7</td> <td>115</td> </tr> <tr> <td>各種団体</td> <td>15</td> <td>171</td> </tr> <tr> <td>町議会</td> <td>1</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>教育委員会</td> <td>1</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>個人</td> <td>-</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>37</td> <td>548</td> </tr> </tbody> </table> <p>※上記一覧には含まれない未登録の協力者も多い。</p>	登録団体の種類	団体数	登録者数(人)	自治会等	13	182	学校関係	7	115	各種団体	15	171	町議会	1	13	教育委員会	1	5	個人	-	62	合計	37	548	<p>【子どもの安全対策連絡会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域との連携及び情報交換を図る場として子どもの安全対策連絡会議を各学期ごとに年3回実施。 <p>【通学路合同点検】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校より報告のあった通学路上の危険箇所について、町関係各課及び県土木事務所立会いの下、合同点検を実施し、危険箇所の共有及び対策について検討。 							
登録団体の種類	団体数	登録者数(人)																															
自治会等	13	182																															
学校関係	7	115																															
各種団体	15	171																															
町議会	1	13																															
教育委員会	1	5																															
個人	-	62																															
合計	37	548																															

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	<p>※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。</p> <p>・町全体で子どもの安全対策に取り組んできた結果、令和元年度においても前年度に続き、子どもの生命や身体に危害を及ぼす重大な犯罪被害はない。また、不審者情報件数も総体的に減少しており、同様に町内における件数も減少傾向にある。全国的に見ても子どもを巻き込む犯罪に対する警戒感等の機運の高まりがうかがえる。これは、地域住民や子ども達の危機意識の向上が犯罪被害防止につながっているものと考えられ、「子ども情報ネット配信」登録者数も前年度比114人の増で、登録者数の増加は防犯意識の向上に比例しているものと思われる。しかしながら、依然、不審者の出没はあり、地域全体の更なる防犯意識の向上と強固な連携及び協力は不可欠である。【成果指標①】</p> <p>・「子ども見まもり隊」の登録人数については、新規で20名の登録があった。しかしながら、未登録の見守り活動の協力者もいる一方、登録のまま活動を休止している人もいることから、登録者数と実働者数は未だ乖離しているものと思われる。【成果指標②】</p> <p>・何らかの対策を要する町内通学路危険箇所については、信号や標識等の掲示及び通行規制など、警察等の関係機関への協力依頼を要するケースも少なくないが、その対策の必要性に鑑み、活動強化や通学路の点検協力など、これまでよりも活発かつ具体的な協体制が見られる。今後も重点的な通学路の点検を進めるとともに、関係機関への要望等の協力依頼を継続していく。なお、巡視回数の減については、中学校建替工事に伴う仮設校舎に通学する中学生に対し実施していた巡視委託を、令和元年度の新校舎完成に伴い廃止したためである。【成果指標③】</p>
-------------	---

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H30年度	R1年度	決算額(円)
	①子ども情報ネット配信	メール登録者数	人	934	1,048	H30 64,800 R1 65,400
②子ども見まもり隊	見まもり隊登録人数(累積人数)	人	528	548	H30 0 R1 0	
③巡視委託	巡視回数(小学校年間合計・延べ回数)	回	4,743	1,991	H30 4,174,280 R1 2,508,236	
④青色防犯パトロール	パトロール回数	回	94	96	H30 0 R1 0	

③事業の課題	<p>【継続的な課題】</p> <p>①「子ども見まもり隊」の協力団体や地域による参加率等の温度差。</p> <p>②登下校時の児童生徒の安全確保はもとより、危険度の高い交差点(勢野北地区等)における「子ども見まもり隊」及び地域や関係機関等のボランティアの安全確保。</p> <p>③「子ども見まもり隊」の登録には傷害保険の加入が伴うため、実状に即した登録者名簿の整理が必要。</p> <p>④通学路における危険箇所(ブロック塀・交通事故発生エリア等)の把握。</p>
	<p>【新たな課題】</p> <p>①通学路危険箇所への対策のための予算確保。</p> <p>②通学路となっている道路には県道が含まれており、県への協力依頼及び交渉が必要となる。</p>

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	<p>【継続的な課題に対する改善方法及び結果】</p> <p>①「子ども見まもり隊」については、学期ごとの活動報告と活動目的を関係会議において周知するとともに自治会等に対する協力を依頼した。昨今の子どもを巻き込む事件・事故の増加により、全国的に地域の子どもの守る意識の向上が見られ、登録人数が増加している。しかしながら、地域ごとに組織立った見守り体制の構築は依然必要であり、登録も含め、今後もSNS等を利用して「ながら見守り」等の協力についても啓発を推進しつつ、自治会等の団体に協力依頼を行っていく。</p> <p>②児童生徒はもとより、ボランティアの見守り活動時の安全確保をするため、特に通行量の多い通学路等において警察に協力を求め、ドライバーに注意喚起を行うとともに、特に危険な交差点の信号設置の検討を依頼した。</p> <p>③「子ども見まもり隊」の実働状況を把握するため、登録者名簿の提出を求めるなど、地域に働きかけを行った。</p> <p>④教育委員会が主となり、学校・警察・交通安全協会及び役場関係課が合同で通学路合同点検を定期的に実施できる体制作りを検討する。また、交通量の多い道路の通行制限や信号設置に向けた検討を実施。</p>
	<p>【新たな課題に対する改善方法の検討】</p> <p>①町内道路担当課及び環境整備担当課と協議及び情報共有し、予算確保の依頼。</p> <p>②学校及び保護者等からの情報提供及び通学路合同点検の結果に基づき、県土木事務所及び県警察へ対応を依頼。</p>

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し	(内容) <input checked="" type="checkbox"/> 予算拡充 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input checked="" type="checkbox"/> 事業拡大 <input type="checkbox"/> 事業縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 休止・廃止
<p>すべての事業において、地域住民、町行政及び関係機関との連携を強化。地域全体で更なる危機感を持ち、防犯意識の向上を図るため、地域の協力を求め「犯罪被害者を生まない町づくり」の基盤強化につながる事業を積極的に展開し、啓発する。併せて「子ども見まもり隊」の名簿整理及び更新を実施するとともに、各地域における見守り活動を組織化することで、その活動実施状況の把握に努める。また、通学路上の危険箇所についても、地域住民及び学校の協力を得ながら把握及び対策を進める。</p>		

令和元年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑨学校給食体制の整備	担当課名	給食センター (教育総務課)	教育大綱位置づけ	Ⅱ「教育なら三郷町」
基本方向	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校給食衛生管理基準」に基づき、学校給食における衛生管理の徹底を図ります。 ・「食育」の一環として、学校・幼稚園における給食指導を継続します。 				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ○安全安心な学校給食 <ul style="list-style-type: none"> ・職場の衛生管理及び職員の健康管理等を行うとともに、安全安心な給食材料を使用する。 ・栄養管理職員の資質向上を図るため、県の調理員研修会に参加する。 ○食育・地産地消の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身につけ、食事を通して自らの健康管理ができるようにするために、「食」の指導の充実を図る。 ・農業委員会の指導及び協力を得て、食育の面も含めて「教育ファーム実践事業」を推進するとともに、信貴山のどか村やCAP35※の協力も得て、町内産の食材を使用することにより地産地消の推進を図る。 ※CAP35…将来の三郷町の農業を見据え、町民に対して食と農に関する共通理解を深め、安全な農産物の安定供給と農地を含めた自然環境の保全を進めるとともに、新規農業者の自立・就農の支援及び雇用の安定を図り、農を主体とした地域活性化に寄与することを目的として設立された特定非営利活動法人をいう。 ○給食センターの運営方法 <ul style="list-style-type: none"> ・給食センターの調理・配送等業務については業者に委託し、きめ細かな食物アレルギー対応等、安全安心な給食の提供に努めている。
---------	---

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	<ul style="list-style-type: none"> ○安全安心の学校給食 <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園及び小学校において保護者を対象とした給食試食会を実施したところ、188人が参加した。 ・安全・安心な学校給食を提供するため、できる限り国内産食材を使用し、また、地産地消の観点からも、県学校給食会推奨食品や信貴山のどか村及びCAP35の旬の野菜を積極的に使用した。 ・県が実施している調理員研修に積極的に参加し、職員の資質の向上に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ① 学校給食衛生管理指導者実技講習会 (7月26日(金)) 参加人数：2人 ② 奈良県学校給食研究大会 (8月23日(金)) 参加人数：8人 ○食育・地産地消の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・食育については、各学校において作成した「食に関する指導」の全体計画をもとに実践。 ・生活科・家庭科や総合的な学習の時間における「食に関する指導」や給食に関わる指導を実施。 【内容】 <ul style="list-style-type: none"> ① 教科等授業時間数： 17.0時間 ② 給食指導時間数： 5.5時間 ③ 個別指導その他： 20.5時間 ・「食育推進事業」として、給食センター2階研修室において住民を対象に年間15回のクッキング教室を実施。また、学校給食を身近に感じていただくことを目的に住民給食試食会を年間15日実施した。 ・「教育ファーム実践事業」については、農業委員会の指導及び協力を得て、食育及び地産地消推進の観点から、例年の実施と同様に体験授業として各小学校児童が前年11月に作付けをしたタマネギを本年度の6月に収穫した。また、11月には次年度の収穫に向け、各小学校児童がタマネギの作付けを行った。 ○給食費の滞納状況 <ul style="list-style-type: none"> ・徴収業務として、文書による督促をはじめ、電話・家庭訪問による交渉を行い、滞納の解消に努めた。 【令和元年度末滞納状況】 令和元年度末現在の滞納額 204,788円 (9人) <内訳> ①滞納繰越分 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">平成30年度末滞納額</td> <td style="text-align: right;">101,988円 (5人)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">収納額</td> <td style="text-align: right;">8,400円 (1人)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">令和元年度末滞納額</td> <td style="text-align: right;">93,588円 (4人)</td> </tr> </table> ②現年度分 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">令和元年度末滞納額</td> <td style="text-align: right;">111,200円 (5人)</td> </tr> </table> ○給食センターの運営方法 <ul style="list-style-type: none"> ・給食センターにおける調理・配送等業務は、公募型プロポーザル方式(企画提案方式)により業者選定し、現在、株式会社東洋食品に5ヵ年契約(平成30年8月1日から令和5年7月31日)で委託している。 ・食物アレルギー対応として、卵(鶏卵・うずら卵)・乳製品(牛乳・チーズ・ヨーグルト・バター)・エビ・カニのアレルギーについては、除去食により対応。また、卵・乳製品を含むデザートに対しては代替食により対応。なお、牛乳の除去・代替(緑茶・豆乳)については、保護者の意向に沿って対応している。 ○放射能測定器による食材検査については平成24年3月以降測定を実施してきたが、一定の安全を保っているため、平成30年度で終了した。 	平成30年度末滞納額	101,988円 (5人)	収納額	8,400円 (1人)	令和元年度末滞納額	93,588円 (4人)	令和元年度末滞納額	111,200円 (5人)
平成30年度末滞納額	101,988円 (5人)								
収納額	8,400円 (1人)								
令和元年度末滞納額	93,588円 (4人)								
令和元年度末滞納額	111,200円 (5人)								

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	<p>※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 給食試食会や食育指導事業は、新型コロナウイルスの影響等もあり、給食試食会の参加人数が前年度に比して減少しているが、食育指導のクラス数の増加等、総合的な事業を通じて、給食に対する関心を深めることができた。【成果指標①②】 給食費の滞納額は、令和元年度末時点で204,788円(滞納繰越分93,588円、現年度分111,200円)と、前年度比102,800円の増となった。徴収については、保護者の経済的理由により納付困難なケース等、個別事情も考慮のうえ、再三に渡って保護者と協議及び支払期限毎の電話による確認や家庭訪問による交渉等を実施したが、背景にはコロナ禍の影響等も多少あるものと考えられる。【成果指標③】 平成27年度以降、調理・配送等業務を民間委託にしたことにより、高度な衛生管理の実現及び安全・安心な給食の提供及び調理員の資質向上を図ることができている。食物アレルギー対応については、令和2年3月末時点で7名の児童生徒にきめ細かに対応しており、安全安心な学校給食の提供が図れている。 食育・地産地消の推進を図りつつ、安全安心な学校給食を提供できた。農業委員会や信貴山のどか村、CAP35の協力により、徐々に町内食材地産地消率の向上に繋がっている。 また、教育ファーム実践事業によるタマネギは、暑さ対策として保管施設に寒冷紗を設置したことにより、長期間の保存が可能となった。このことから、給食食材としての使用量が前年度より増加したため、「かき揚げ」に加工するなどバリエーションを増やし、有効活用が図れた。【成果指標④】 住民対象に実施する食育推進事業「食育クッキング教室」の開催回数を増やすことにより、更なる食育の推進に繋がると同時に、本町給食センターの「防災機能を有する複合施設」としての認知が定着しつつある。【成果指標⑤】
-------------	--

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H30年度	R元年度	決算額(円)
	①給食試食会(幼稚園・小学校)	参加人数	人	223	188	H30 R I
②食育指導	延べクラス数	クラス	38	41	H30 R I	
③給食費の滞納整理	滞納者数(年度末)	人	5	9	H30 101,988(滞納額) R I 204,788(滞納額)	
④食育・地産地消の推進	町内食材地産地消率	%	2.36	2.63	H30 R I	
⑤食育推進事業(食育クッキング教室)	開催回数	回	28	30	H30 R I	

③事業の課題	<p>【継続的な課題】</p> <p>① 給食費の徴収については、現年度分の未収額が毎年発生している。また、現年度分はもとより、過年度分未収額の速やかな徴収。</p> <p>② 令和元年度の食育事業も前年と同じ参加者が大半を占めていたことから、新規の参加者を確保するための幅広いPR方法等、工夫が必要である。</p> <p>【新たな課題】</p>
--------	---

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	<p>【継続的な課題に対する改善方法及び結果】</p> <p>① 給食費の滞納整理については、今後も継続的に実施し、学校からの働きかけはもとより、給食センターからも定期的に保護者に交渉する。</p> <p>② 食育事業については、ひとりでも多くの方に事業を認知いただけるよう各学校・園の給食試食会等でもPRするなど、多角的にアプローチしながら、魅力ある食育クッキング教室を企画・開催する。</p> <p>【新たな課題に対する改善方法の検討】</p>
------------	--

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し	(内容) <input type="checkbox"/> 予算拡充 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 事業拡大 <input type="checkbox"/> 事業縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し <input checked="" type="checkbox"/> 休止・廃止
<ul style="list-style-type: none"> 今後も農業委員会等の各団体の協力や更なる連携強化を図り、地産地消の積極的な推進及び安全安心な学校給食の提供に努める。 給食費の滞納については、学校の協力や連携強化は不可欠であり、未納額の解消に努め、今後も引き続き『滞納ゼロ』を目指して滞納処理に努める。 また、併せて「三郷町学校給食費の不納欠損処分要綱」の規定に基づき、必要に応じて不納欠損処分の手続きを行い、適正な滞納整理を実施する。 今後も農業委員会の指導及び協力を得ながら教育ファーム実践事業を推進し、タマネギの作付・収穫など、子ども達自身の体験を通じて、自然の恩恵や「食」に関わる人々の様々な活動への感謝の気持ちや理解を深める活動を展開する。また、食育はもとより地産地消の重要性などに鑑み、積極的な事業展開を実施する。 フェイスブックにおける学校給食の献立掲載等、SNSを活用した情報提供の継続。 住民を対象とした「食育クッキング教室」や「給食試食会」の開催を通じ、食育事業を引き続き推進する。 		

令和元年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑩幼児教育の充実	担当課名	こども未来課 南畑幼稚園	教育大綱位置づけ	I「子育てなら三郷町」
基本方向	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領に基づき、適切な教育課程の編成を行います。 ・幼児の心身の発達と義務教育及びその後の教育の基礎を培う幼児教育の充実に努めます。 ・地域に信頼される開かれた幼児教育を推進します。 				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児が、自然な生活の流れの中で直接的・具体的な体験を通して社会・文化・自然などに触れ、豊かな感性を育み、生きる力の基礎を培う環境づくりに努める。 ・幼児一人ひとりの特性に応じた発達の課題を見極め、個々の成長を援助し、幼児期に育むべきことを幼児期にふさわしい生活を通して育てることで、円滑に小学校へ移行できるようにする。 ・保護者や地域の方々に信頼される幼稚園を目指し、幼稚園の機能を活かして預かり保育や園庭開放・教育相談を行い、子育て支援に努める。 ・幼児の主体性を育むことに重点を置き、教育課程の見直しを行う。
---------	--

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	<p>○奈良県教育週間（11月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県幼児教育研究会による「子ども作品展」への出展。 ・地域に開かれた幼稚園づくりを目的として、教育講演会及び保護者が保育に参加する「幼稚園ウィーク」を開催。 <p>【内容】</p> <p>11月 7日（木） 保護者参加型のクラス行事を実施。3歳児…信貴山朝護孫子寺散策 4歳児…自然物を使ったリース作り 5歳児…おもちゃ（運動玩具）作り</p> <p>11月 14日（木） 参観と教育講演会の開催。 自由遊びと朝の体操の様子を参観してもらった後、講演会を行った。 演題：家庭内での事故対応 講師：日本赤十字社奈良支部 浦田 真希子さん</p> <p>○特別支援教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要とする園児の教育支援計画及び個別指導計画を作成し、保護者や関係機関との連携に努めた。また、職員のスキルアップや幼児理解を深めることを目的として、巡回アドバイザーによる園内研修を実施。 <p>県の子ども地域支援事業…1回 町の巡回相談…2回</p> <p>○子育て支援及び預かり保育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育終了後に園庭を開放して、保護者と園が園児の成長を共有し、保育内容に対する理解を深めるとともに、家庭教育の啓発や子育て相談を行う「にこにこランド」を年間6回実施予定だったが、3月が休園のため5回となった。 ・次年度入園予定の未就園児を対象として6月に見学会を2回、8月に体験デーを2回実施した。入園に向けての不安や疑問に答えるなど子育て相談の場となった。3月に半日入園を企画していたが休園のため、中止となった。 ・家族の通院や介護、兄や姉の授業参観等のほか、保護者の就労時間や各家庭の諸事情により、緊急又は臨時的に降園時刻以降の保育の必要が生じた場合に、できる限り対応し、預かり保育を行った。 <p>○教育課程の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、管理職が中堅教諭研修を受けていたため、その機会に園の現状と課題の整理を行った。遊び込める幼児を育て、主体性を育む教育の実践と環境づくりが課題となったことから、指導主事より助言を受けながら、検討・作成した。 <p>○環境づくりへの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節や子どもの遊びの流れに応じて、全教員で環境会議を実施する。各クラスより、子どもの姿を出し合い、意見交換を行い、それを受けて、環境設定を考えた。月に1回程度の実施。 ・期間案と個別の幼児の記録を活用し、保育終了後に幼児の姿を振り返り、明日に向けて環境を再構成することに努めた。 <p>○ALTとの交流(年間7回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年中～年長児が歌や遊びなどを通じて外国語や異文化に触れ、コミュニケーションの楽しさを感じることが出来る「ALTとの交流」を実施。(年中2回・年長5回) ※年中は、臨時休園のため1回減。
---------	--

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	<p>※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県教育週間中に実施した教育講演会の参加世帯数は45家庭(30年度は42世帯)であった。家庭での事故対応という内容が、家庭生活に直結しており、関心の高さが参加率につながったと考える。 ・特別支援教育においては、こども未来課の事業である「ひまわり教室」・「巡回相談」が始まったことにより発達に課題をもつ幼児に療育を進めることがスムーズにできるようになった。また、巡回相談によって、教員がより多くの支援の方法を学ぶことができ、教員のスキルアップにもつながっている。 ・預かり保育については、母親が就労している家庭の利用が多かった。就労以外の理由での利用が少なかったため実施回数は減少している。【成果指標①】 ・園庭開放「にこにこランド」については、参加率が年々低下している。内容の工夫等も行ってきたが、参加する家庭も限られている。保護者同士のつながりを持つ機会としては必要な場であったので、在園児を対象とした「にこにこランド」を廃止し、対象を次年度入園予定の未就園児とした内容に取り組んでいくことを考える。【成果指標②】 ・未就園児のいる家庭に在園児の遊ぶ姿を見てもらうことや、教員と一緒に遊ぶ機会を持ったことで本園での生活をイメージしてもらえた。また、入園までの子育てについての相談があったが、入園までの期間が長いいため、より多く相談できる機会を設ける必要性を感じた。 ・主体性を育むことに重点を置き、教育活動が幼児にとって自然な流れで行われるように教育課程を見直すことができた。また、教育課程に則った活動を考えると、園行事の見直し・削減も必要であり、教員の意見も取り入れながら、必要な見直し・削減ができた。
-------------	--

	事業名	成果指標名	単位	H30年度	R元年度
②成果指標	①預かり保育	実施回数	回	272	245
	②園庭開放「にこにこランド」	実施回数/参加家庭数	回/家庭	6/222(家庭)	5/156(家庭)

③事業の課題	<p>【継続的な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教育相談や保育内容の理解、また、家庭教育啓発のために保護者と連携できる関係性を築く。 ②「幼児期の終わりまでに育ってほしい力」について保育園とも情報を共有しつつ、就学前教育の充実に向けた保幼小の連携体制づくり。 ③教育課程に基づいた組織的・計画的な教育活動の質の向上。 ④幼児理解を深めるための保育の記録の活用。 <p>【新たな課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①新入園児の幼稚園生活への円滑な接続。
--------	---

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	<p>【継続的な課題に対する改善方法及び結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①親子行事等の機会や電話連絡・家庭訪問などで、教員が保護者との積極的なコミュニケーションに努めるとともに保護者の願いや子育ての悩みに寄り添い、向き合ってきた。また、カウンセリング研修を受け教員のスキルアップを図った結果、保護者との信頼関係は深まりつつあるが、保育内容の理解までは深めることまではできなかった。今後、幼稚園だよりや写真掲示などを通して具体的に幼稚園教育を伝えていきたい。 ②年長児の保幼小交流会を通して、教員同士が子どもの育ちや課題について意見交換できる機会を持つことはできたが、公開保育や園内研修等に教員が互いに参加しあう機会を持つことができなかった。互いに時間の確保が難しい状況ではあるが、保育園と協力しながら職員同士が自由に行き来できる体制作りに取り組んでいきたい。また、今年度は、小学校教員に2回研修の講師をしていただき、園児の遊ぶ様子を見てもらうことができた。引き続きこのような機会を設けていきたい。 ③教育課程を見直したことで、教員も活動の流れをつかみやすくなり、次年度は教育活動の内容が充実できると考えている。しかし、管理職中心で行ったため、全教員が内容を把握しきれていない。そのため、今後実践を通して全教員で内容の把握・点検を行う必要がある。 ④年間を通して個々の幼児の育ちや保育内容を記録してきたが、個人やクラスでの取り組みにとどまり、全体研修の場まで広げることができなかった。今後は特に園内研修を充実し、保育や記録を公開し、実践内容を深めていけるよう取り組んでいきたい。また、期間案については記入することが教員の負担になっている現状がある。次年度は、書くことで実践につながるような様式に見直し、変更する必要がある。 <p>【新たな課題に対する改善方法の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①次年度入園する未就園児を対象とした親子登園(プレ保育)を実施する。入園前からの保護者・幼児との信頼関係の構築、保護者同士の交流の場づくりに努めることで、幼稚園生活への円滑な接続を図る。
------------	---

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し	<p>(内容) <input type="checkbox"/>予算拡充 <input type="checkbox"/>予算削減 <input type="checkbox"/>事業拡大 <input type="checkbox"/>事業縮小 <input checked="" type="checkbox"/>手法見直し <input checked="" type="checkbox"/>休止・廃止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の資質向上・教育力向上のために、幼稚園教育の基本である「環境による教育」を教員で切磋琢磨しながら考えていきたい。そして、教育の場である幼稚園を保護者に情報発信していく。 ・令和2年度の教育課程を基にした教育活動を充実させることができるよう、園内研修等を積極的に設ける。また、今年度は環境づくりに重点を置いて研修を深めていく。 ・プレ保育については、年間計画を作成し、令和2年度は9月より実施する。幼稚園教育や幼稚園の生活を保護者に知ってもらうとともに、幼児・保護者との信頼関係作りに取り組む。 ・教育相談を積極的に行い、内容を教職員で情報共有をしながら、関係機関との連携を含めてその子に応じた対応を考えていく。

令和元年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	①生涯学習の推進	担当課名	生涯学習課	教育大綱位置づけ	Ⅲ「住み続けるなら三郷町」
基本方向	<ul style="list-style-type: none"> 時代に即応した町独自の学習の企画・開発に努め、より多様で充実した学習機会の提供を進めます。 知識・経験をもった人材が生涯学習に活躍できるよう、各種講座へのボランティア派遣制度の構築を図ります。 各種団体、学校、企業などの協力を得ながら、住民ニーズに合った学習講座の開催と様々な情報提供システムの構築を図ります。 				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ○学習基盤の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が主体的な活動により、心身ともに健康で豊かな人生を送ることができるよう、多様な分野での学習活動の場を提供する。 ○地域住民等の人材の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施に伴い、活動を担う指導者やボランティアの育成を図り、地域住民等の人材を活用するとともに、その団体やグループに支援を行う。 ○各種学級事業 <ul style="list-style-type: none"> ・自主的な学習を支援するため、学習に必要な講師等を招き、住民ニーズに応じた各種学級を開講する。
---------	---

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	○学習基盤の整備 社会情勢や住民ニーズを取り入れ、時代に沿った学習内容とする。						
	○各種学級の運営状況						
	学級名	目的	事業内容	平成30年度		令和元年度	
				学級生数	開催回数	学級生数	開催回数
	家庭教育学級	家庭教育の重要性や役割を認識し、子育てやそのあり方について学びつつ保護者同士のネットワーク機能を充実させるとともに、自らを振り返り、様々なことを学習する場を提供することで、安定した明るい家庭づくりを図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康学習(ヨガ・フラ) ・創作(アロマ・ペーパークラフト・アイシングクッキー) ・教養講座(マネー・子育て心理)等 	33人	11回	33人	9回
	長寿学級	熟年者として、時代の流れに対応できる生き方・暮らし方を探求し、自主的・意欲的な学習活動を通じて、生き甲斐を感じる。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会見学 ・健康体操 ・音楽鑑賞 ・講演等 	57人	11回	61人	9回
	くれない学級	教養を高め、自主的・意欲的な学習活動を行い、女性としての生き甲斐を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・歩く会(龍田古道) ・ヨガ ・創作 ・社会見学 ・料理教室等 	57人	11回	64人	9回
歴史教養講座	身近な歴史とふれあい、個々の知識を深め心豊かにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・現地学習4回(銀閣寺等) ・講義5回(「近代の天皇と皇后」等) 	49人	13回	58人	12回	
みさと万葉学習会	万葉集の学習を通じ、知識を深めるとともに町の歴史と文化について関心をもち、心豊かにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・現地学習2回(滋賀県高島市等) ・講義8回(関西大学 村田右富実先生等) 	77人	14回	79人	12回	
<p>※5学級合同学習会：7月13日(土)「人権学習会」、10月26日(土)「教育講演会」を開催。 ※健康福祉学習会については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。</p>							

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ○各種学習の運営 ・生涯学習学級として「家庭教育学級」「長寿学級」「くれない学級」「歴史教養講座」「みさと万葉学習会」の5学級を開催した。参加者は、延べ295名で前年より22名の増となり、ここ数年の減少傾向を食い止めることができた。しかしながら、今回の成果をもって増加傾向に転じたとは言いがたく、今後学習自体のクオリティの向上だけでなく、町の施策や町内の他団体の活動とも連携しながら、より身近に活かせる学習内容を模索していく。【成果指標①】 ・各学級の現地学習で使用するバスの賃借料については、町が一部を負担することにより、学級生の負担軽減を図ったため、前年度に比して増額となっている。【成果指標①】 ・各学級の運営はそれぞれの運営委員会により事業内容等を検討するなど、学級の自主的な運営を実施。 ・学級生から希望の聞き取りを行い、学習内容に反映させた。 ○地域住民等の人材の活用 ・各学級の講師には、文化教室や各施設のボランティア団体等を活用し、地域の活性化を図るとともに、町外の講師も招き、内容の充実に努めた。また、奈良県登録の講師や他機関の人材も活用した。
-------------	---

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H30年度	R1年度	決算額(円)
	①生涯学習学級	登録者数	人	273	295	H30 747,416 R1 1,200,979

③事業の課題	【継続的な課題】 ①生涯学習の各学級は、受講者には人気があることから例年同内容で継続しているが、社会情勢や住民ニーズを的確に捉えながら内容の刷新を図ることが必要である。 ②各学級生の高齢化や学級の地区役員が担当するエリアの広さから、役員にこれまでと同様の役割や負担を求めることが難しくなっている。
	【新たな課題】 ①全ての学級において、3月の講義が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となっており、次年度以降においても講義の開催の可否、開催場所、開催方法などに大きな影響が出ることが予測される。流動的な状況に適応すべく、事前に学習方法を模索していく必要がある。

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①学級の学習内容については、学級生のニーズの聞き取りを行い、反映していく必要がある。また、社会の状況に合わせて柔軟に学習テーマを変化させる必要がある。 ②「各学級生による自主運営」という原則から逸脱しない範囲で事務局も協力し、学級役員の負担軽減を図る。
	【新たな課題に対する改善方法の検討】 ①新型コロナウイルス感染症対策として、施設内やバス内での密集を避けるため、これまでの学習形態を対策のとりやすいものに変更しつつ、運営に係り学級生の体調の把握や衛生管理を徹底する。

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持 ※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し (内容) <input type="checkbox"/> 予算拡充 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 事業拡大 <input type="checkbox"/> 事業縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 休止・廃止 ・住民が主体的に学習できる学級運営を引き続き行う。 ・地域の人材や歴史、産業などの資源を掘り起こし、活用する。 ・社会の変化に合った学習内容とする。 ・各学級運営に工夫を凝らし、学級生の増加を維持する。

令和元年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑫青少年の育成	担当課名	生涯学習課	教育大綱位置づけ	Ⅲ「住み続けるなら三郷町」
基本方向	・児童・生徒の育成のため、問題行動の解決に向けた地域ぐるみの取り組みを推進するとともに、関係機関と連携し、早期発見・早期指導の体制充実を図ります。				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	<p>○青少年育成三郷町民会議 青少年問題の重要性に鑑み、関係機関および団体の緊密な協力により、広く町民の総意を結集し、次代を担う青少年の育成を図る。</p> <p>①ふれあいのつどい ・家族・地域社会等のふれあいを築くことを目的に開催する。</p> <p>②教育講演会 ・次代を担う青少年の育成を図ることを目的として講演会を開催する。</p> <p>③問題行動等防止 ・巡回指導の実施及び関係団体の協力のもと、夏休み・春休みに町内の巡視を行う。</p> <p>○成人式 新成人の門出を祝福するため「成人式」を開催する。多くの新成人に参加してもらえるように努める。</p>
---------	--

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	<p>○青少年育成三郷町民会議</p> <p>①指導推進部会 幼保小中高の子どもたちの様子や長期休業期間の生活の様子などについて学期毎に意見交換を行い、情報を共有し、各学校園において児童生徒等の指導に当たった。また、情報を共有することにより、学校のみならず、町全体の問題として地域の理解を深め、学校、保護者、地域、関係機関等の連携強化を図った。</p> <p>②調査研究部会 町民会議委員を対象に「学校と地域の新たな協働体制づくり」というテーマで研修会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止した。</p> <p>③啓発促進部会 町民会議の各種事業に係るポスターの作成や広報、また「子ども・若者支援強調月間」のポスター募集等の啓発活動を展開した。</p> <p>④地域活動部会 「ふれあいのつどい」開催に係る内容・役割分担等、関係機関と協議及び連携し、事業を実施した。</p> <p>⑤関係機関との連携 「三郷町要保護児童対策地域協議会」や「定例人推連絡会」と連携を図り、幼児・児童・生徒が置かれている現状を共通認識し、青少年の育成を図った。</p> <p>○教育講演会 期日 令和元年10月26日(土) 場所 文化ホール 講師 清水 健 氏 演題 「大切な人の想いととみに…」 参加人数 257人</p> <p>○ふれあいのつどい ・参加家族全員で野外炊飯・味覚狩り・ゲーム等を楽しみながら、子ども同士・保護者同士のつながりを築くことができた。 期日 令和元年11月4日(月・祝) 場所 農業公園信貴山のどか村 参加人数 小学生 62人・小学生未満 20人・保護者 62人 合計 144人</p> <p>○問題行動等防止 ・巡回補導(生駒郡4町合同(生駒郡青少年指導連絡協議会)で実施) 実施日:令和元年8月31日(土)</p> <p>・巡視活動 関係機関の協力のもと、学校の長期休業期間に公用車による町内巡視(13回)を実施。 (巡視時間 20時~21時) 実施日:夏休み期間 7月23日(火)25日(木)30日(火) 8月1日(木)6日(火)8日(木)20日(火)22日(木)27日(火) 春休み期間 3月24日(火)25日(水)26日(木)27日(金) ※春休みは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため教育委員会事務局職員のみで巡視。</p> <p>○成人式 期日:令和2年1月12日(日) 場所:文化センター及びスポーツセンター 参加人数:172人</p>
---------	--

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	<p>○青少年育成三郷町民会議 ・児童・生徒の問題行動について、突発的な事案に対し、定例人推連絡会議や町行政と教員・家庭・地域の間で緊急協議を実施。青少年の真の問題点の把握・分析を行い、各関係機関と密接な連携を図ることで、各部会の活動を計画どおり実施し、青少年の育成を図った。</p> <p>○ふれあいのつどい 期日：令和元年11月4日（月・祝） 参加人数：144人 今年度も定員を超える申し込みがあり、多くの保護者・子ども相互の交流が図れた。【成果指標①】</p> <p>○教育講演会 ・前年度の参加者156人から今年度は257人に増加した。講演者の知名度の高さに加え、現在の児童生徒の保護者と近い世代ということもあり、より身近に感じる講演内容となった。【成果指標②】</p> <p>○問題行動等防止巡視 ・13回の夜間巡視活動を行い、みさと第2児童遊園地でのたむろ行為やとっくり湖での釣りを確認したが、近年の傾向通り問題行動等に遭遇する機会は減少した。今後も引き続き西和警察署と連携し、巡視を継続していく。【成果指標③】</p> <p>○成人式 ・対象者238人のうち参加者が172人で、参加率は前年度68.0%から本年度は72.3%と4.3ポイント増加した。今後も引き続き7割以上の参加率の確保に努める。【成果指標④】</p> <p>※青少年の育成については、単純に分析することは困難であるが、年々、家庭・学校・地域・行政の協働と連携の強化は図られている。今後も早期発見、的確な助言及び指導を通じて問題行動等の未然防止や問題解決に努める。</p>
-------------	--

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H30年度	R1年度	決算額(円)	
	①ふれあいのつどい	参加人数	人	138	144	H30	920,533
②教育講演会	参加人数	人	156	257			
③問題行動等防止巡視	巡視回数	回	13	13	R1	882,979	
④成人式	参加率	%	68.0	72.3	H30	320,414	
					R1	353,918	

③事業の課題	<p>【継続的な課題】 ①問題行動等防止巡視 ・巡視において青少年に対する指導を行うが、補導等の権限がないことから警察との連携が必要である。</p> <p>【新たな課題】 ①新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、自宅での自粛生活の長期化や行動の制限に伴って、青少年のストレスも増大している。地域や学校とも連携し、現状に合わせた新たな試みが必要となる。</p>
--------	--

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	<p>【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①令和元年度においても西和警察署に協力依頼を行い、問題行動等を発見した際の通報や巡視時に合わせてパトカーでの巡回などの協力を得た。</p> <p>【新たな課題に対する改善方法の検討】 ①屋外での問題行動への対応はもとより、インターネットを介した問題や家庭での生活の乱れなどにも注意をはらい、情報リテラシーの啓発活動や問題への対処を検討していく。</p>
------------	--

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	<input type="checkbox"/> 見直し	(内容) <input type="checkbox"/> 予算拡充 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 事業拡大 <input type="checkbox"/> 事業縮小 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 休止・廃止
<p>・青少年の育成には地域の協力が必要不可欠であることから、今後も関係機関等と連携を密に図り、協力を求めながら取り組む。</p> <p>・成人式については、令和4年度以降の対象年齢の見直しに伴い、「成人」に替わる新しい「20歳」のカテゴリーを作り、式典を開催する。</p>		

令和元年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑬人権教育・啓発の推進	担当課名	生涯学習課	総合計画位置づけ	Ⅲ「住み続けるなら三郷町」
基本方向	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の自発的な啓発活動を促進するため、情報や学習機会の提供などの支援を強化するとともに、学校教育や社会教育を通じて人権教育の内容の充実を図ります。 ・行政、関係機関・団体等の連携によって、住民の立場に立った、利用しやすい人権相談窓口と体制の充実を図ります。 				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ○識字学級 <ul style="list-style-type: none"> ・教育を受ける権利を保障されなかった方に、文字などを学習する機会を提供する。 ○人権教育地区別懇談会 <ul style="list-style-type: none"> ・暮らしの中にある疑問や不合理などを話し合い、人権問題を身近な課題として捉え、人権確立を図る。 ○人権問題学習セミナー <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の推進を図るための人権問題学習セミナーを実施する。 ○人権に関わる相談や対応 <ul style="list-style-type: none"> ・人権に関わる相談や人権侵害事象に対応するため、関係機関と連携を図りながら問題解決を行う。
---------	---

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	<ul style="list-style-type: none"> ○識字学級 <ul style="list-style-type: none"> ・毎週月・木曜日の午後2時より学級を実施している。 登録者数：3人 学習内容：文字の練習、数字の計算、ローマ字練習、習字等 ○人権教育地区別懇談会 <ul style="list-style-type: none"> ・「豊かな高齢化社会を築く生き方と役割」をテーマとして、15会場で開催。 三郷町は、2026年に人口の約2割の方が75歳以上の後期高齢者となり、単身世帯や高齢者同士の世帯の増加に伴い、孤立化が予想される。そのような高齢者の生き甲斐や人権が守られるまちづくりについて考えた。 延べ参加人数：538人 ○人権問題学習セミナー <ul style="list-style-type: none"> ・3回の講演と2回の現地学習を実施。 【講演】 <ul style="list-style-type: none"> (1回目) 期日：令和元年7月16日(火) 場所：図書館 視聴覚室 講師：元 奈良県人権教育推進協議会事務局長 吉岡 伸晃氏 演題：「わたし達の宿題」～人権三法の意義をふまえて～ (2回目) 期日：令和元年8月24日(土) 場所：図書館 視聴覚室 講師：神戸医療福祉大学 客員教授 中園 大三郎氏 演題：「豊かな高齢化社会を築く生き方と役割」について (3回目) 期日：令和元年9月10日(火) 場所：図書館 視聴覚室 講師：音楽デュオ「万華鏡」 自立支援ステーション「ぼかぼか」 理事長 柿本 一志氏・淳子氏 演題：「バリアフリー」を考える 【現地学習】 <ul style="list-style-type: none"> (1回目) 期日：令和元年10月17日(木) 場所：橿原市 内容：「洞村の強制移転」人権ゆかりの地めぐり 他 (2回目) 期日：令和元年11月8日(金) 場所：京都方面 内容：「オムロン株式会社京都工場」 ○人権に関わる相談や対応 <ul style="list-style-type: none"> ・人権問題啓発活動推進本部、人権教育推進協議会などの関係機関と連携を図り、「人権を確かめあう日 県内一斉集会」、「差別をなくす町民集会」などの人権に関わる事業を開催。
---------	--

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	<p>※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。</p> <p>○識字学級 ・一時期、受講者がいない時期があったが、積極的な情報発信と学習意欲を喚起する教材の工夫により開催回数及び参加者数が増えた。【成果指標①】</p> <p>○人権教育地区別懇談会 ・参加者が昨年度よりは減少したが、500名を超える参加者があった。今年度も本町における身近な人権問題をテーマに掲げ、住民の方々に学習の場を提供することができた。【成果指標②】</p> <p>○人権問題学習セミナー ・今年度は「人権教育」「バリアフリー」「人権三法」「高齢者問題」といった様々なテーマを取り上げ、昨年度と比べ、参加者は微増した。地元三郷町在住で、自身に視覚障害のある講師から見たバリアフリーの視点は、多くの参加者に問題提起する講演・学習となった。【成果指標③】</p> <p>○人権に関する相談や対応 ・関係機関と連携を図りながら随時対応できる体制を整えた。</p>
-------------	---

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H30年度	R元年度	決算額(円)
	①識字学級	実施回数	回	13	63	H30 1,960 R 1 9,720
②人権教育地区別懇談会	参加者数	人	580	538	H30 363,271 R 1 398,029	
③人権問題学習セミナー	参加者数	人	445	453	H30 374,260 R 1 368,400	

③事業の課題	<p>【継続的な課題】</p> <p>①人権教育地区別懇談会については、ここ数年、一定の参加者はあるものの、大部分の地域で参加者の固定化、高齢化といった課題を抱えている。</p> <p>②人権教育地区別懇談会を15会場において自治連合会等单位で実施しているが、それぞれの地域住民の世代構成の違い等が顕著になってきていることから、幅広い世代に対応できる共通テーマの検討が必要である。</p> <hr/> <p>【新たな課題】</p> <p>①人権三法の啓発に加え、LGBT、発達障がい、インターネット、高齢者問題など、多様化する様々な問題に対する人権教育の推進。また、新型コロナウイルスに関わる誹謗中傷に対する人権侵害対応。</p> <p>②識字学級の継続と学習内容の精査。</p>
--------	--

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	<p>【継続的な課題に対する改善方法及び結果】</p> <p>①人権教育地区別懇談会については、参加者のニーズを十分把握するとともに、実施に当たっては各自治(連合)会長と綿密な連携を図りながら協力して進めていく。</p> <p>②人権教育地区別懇談会について、開催時に実施している参加者のアンケートや総括会議等での意見も参考にしながら、計画立案していく。</p> <hr/> <p>【新たな課題に対する改善方法の検討】</p> <p>①多様化・複雑化する新たな人権問題に対応できるよう、学識経験者等の意見を取り入れ、研修会等に反映させる。</p> <p>③休講していた識字学級を平成30年11月から再開し、併せて新規入級者の募集に努めた結果、令和元年度は2名の入級があり、現在学級生が3名になった。学級生数が増えることで刺激が生まれ、教材の工夫によって、「もっとやってみたい」「もっと上手に書いてみたい」という意欲が出てきた。</p>
------------	---

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<p>※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)</p> <p>(内容) <input type="checkbox"/>予算拡充 <input type="checkbox"/>予算削減 <input type="checkbox"/>事業拡大 <input type="checkbox"/>事業縮小 <input type="checkbox"/>手法見直し <input type="checkbox"/>休止・廃止</p> <p>・人権は誰もが持つ普遍的な権利であり、その人権が尊重される地域社会を確立するために、学習機会の提供を図るとともに、今後も人権相談等の体制を充実する。また、あらゆる事業に人権の視点が入っているかを注視していきたい。</p> <p>・識字学級受講者の健康不安があることから、識字と共に健康に関する学習も併せて行っていく。</p>
	<input type="checkbox"/> 見直し	

令和元年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑭文化センターの充実	担当課名	生涯学習課	教育大綱位置づけ	Ⅲ「住み続けるなら三郷町」
基本方向	・講座修了のグループが、個々の活動を自主的に展開できるよう、コーディネート体制の確保を図ります。 ・施設の有効利用を図るため、使用料の設定など、運営の改善に努めます。 ・施設の機能向上を図るため、利用者のニーズにあった改修を計画的に進めます。				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	○グループ活動の支援 ・自主的な文化活動を行うグループなどに対し、有意義な活動ができるよう支援を行う。 ○各種講座の開設 ・文化センターにおいて、町民の芸術文化に対する関心を高めてもらうため、文化講座、健康講座等を実施。 ○指定管理者制度の活用 ・民間の経営や事業展開のノウハウを活用し、より充実した施設管理を行うため、公益財団法人三郷町文化振興財団を指定管理者に指定することにより当該財団の自主事業との相乗効果が期待できる。
---------	--

3 事業実績・結果(DO)

No.	講座名	内 容	延べ受講者数	
			平成30年度	令和元年度
			[単位/人]	
1	声楽教室	発声練習と親しみやすい日本歌曲を歌います。	150	-
2	カラオケ教室	受講生の個性を伸ばして、楽しい歌唱の時間をもちます。	78	-
3	カラオケ教室(女性専科)	初心者向け教室。カラオケデビューの第1歩に。	-	74
4	楽しく学ぶ音楽講座①	サクソフォウ奏者の講師が、音楽にまつわる様々な話題を、演奏を交えながら、楽しく紹介します。	28	21
5	楽しく学ぶ音楽講座②	トロンボーン奏者の講師が、音楽にまつわる様々な話題を、演奏を交えながら、楽しく紹介します。	-	25
6	布あそびと着物リフォーム	家にある和布を用いて、服のリフォームや、小物、季節物も制作します。	49	-
7	ハーバリウム作成体験	ガラスボトルにお花や専用オイルを詰めて、世界にひとつだけのインテリア雑貨を作りましょう。	34	-
8	寄せ植え教室	初心者の方の園芸のコツと、四季に応じた寄せ植えを実習します。	86	60
9	折り紙教室	季節に応じた小物(箱等)やアクセサリ等かわいい折り紙を仕上げます。	43	63
10	消しゴムハンコ	消しゴムで好きなデザインを彫ってハンコを作ります。	-	42
11	チョークアート	ブラックボードとオイルパステルで指を使って描きます。	-	40
12	大人可愛いジュエリーバッグ	輝くテープとネットで仕上げ、エレガントで軽くて実用的なハンドメイドバッグを作ります。	-	41
13	ペン字・筆ペンレッスン	季節のお便りや慶弔の表書きなど日常生活に必ず役立ちます。	181	128
14	似顔絵教室	似顔絵を描くことで、人物の個性や表情のおもしろさを絵で表現しましょう。	53	-
15	絵画教室 (クロッキー・写生)	芸術で自分を表現する「コツ」をご指導いたします。クロッキーで全体をとらえる練習もします。	63	-
16	ケーキ教室	オリジナルレシピの手作りケーキを楽しみ、生活を豊かにします。	-	146
17	整理・収納入門	片付けが苦手な人もそうでない人も、「コツ」を知り、快適空間づくりを実践します。	58	48
18	囲碁入門教室	囲碁の打ち方、ルール及び実践と共に、碁に関連する歴史も文芸も学びます。	63	-
19	健康まあじゃん	「飲まない、吸わない、賭けない」健康まあじゃんで脳トレと友達作りを。	314	-
20	はじめての中国語	中国語の発音を正しく身につけて、日常会話を習得します。	-	59
21	ハングル入門	読み書きを中心に、会話も取り入れながら学びます。	85	86
22	英会話レッスンツアー(初級英会話)	初級レベル。旅行気分楽しく英会話を学びます。	-	86
23	着付け入門	浴衣から外出着まで、初歩から紐のみで着付けを学びます。	57	48
24	俳句教室	三郷町の豊かな自然の中で季節(季語)にふれ、俳句を楽しみます。	42	-
25	川柳教室	川柳を通して、脳トレと感性を磨きます。	36	-
26	はじめての箏曲	椅子に座ってお稽古します。お箏も深い音色を体感してください。	12	-
27	気軽に楽しむ和食の作法	和食の盛りつけやお箸の使い方を実践しながら、美しい和食の作法を身につけましょう	15	-
28	ストレッチフラダンス(女性専科)	自然賛歌を全身で表現、心と体を癒します。	96	59
29	ゆる体操初級	固まった身体をゆくりとほぐして血行を促します。	69	78
30	ツボ療法	からだの不調の原因はツボに表れます。ツボを知れば自分の体調管理ができます。	46	35
31	やさしい朗読教室	童話やエッセイなどの朗読を通じて、豊かな表現力を身につけます。	-	105
32	万葉集であそびましょ	万葉集を通して現代人に通じる生活を学び、万葉集で遊びましょう。	-	81
33	童謡をうたおう	口ずさんだことのあるような童謡や、新しい童謡にも挑戦しながら楽しく歌います。	-	67
合 計			1,658	1,392

○文化センター利用率		
	平成30年度	令和元年度
・文化ホール	17.9%	10.7%
・展示ホール・ロビー	27.8%	19.2%
・会議室・研修室・音楽室	37.4%	33.2%
・創作室・和室・茶室・視聴覚室	21.3%	18.6%
・その他(リハーサル室ほか)	29.3%	23.1%
センター全体の利用率	28.3%	23.6%
○文化センター改修(主な改修)		
・文化センターエレベーター 設備入替工事		12,906,000円
・文化ホール舞台照明ポーターケーブル取替		2,646,000円
・文化センター玄関床タイル改修工事		1,047,600円
・文化センター地下駐車場天井修繕		895,860円
・文化センター受水槽チャッキ弁取替		464,400円

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。
	<p>○文化講座・健康講座</p> <p>・令和元年度は、新規の11講座を加えて受講者の募集を行い、21講座を開講。講座数は、平成30年度から1講座減で、延べ受講者数は平成30年度の1,658名から1,392名となり、前年度に比べ266名の減となった。講座数、受講者数は減少したが、講座修了後も自主的なクラブ活動として継続している活動が多く、講座が生きがい・仲間づくりの契機となっているため、今後も魅力ある講座を開講していきたい。一方、近隣町と比べて講座数が多く、受講申込者数が開講条件数に満たない講座もある。また、流行をとらえた講座を新規開設しても一過性の流行は長続きせず、講座も単年で終わり、受講者数が不安定になる。このような傾向を解消するためには内容を吟味し、講座数を絞ることも検討する余地がある。【成果指標①】</p> <p>○文化センター利用状況</p> <p>・利用者数の把握が難しい施設もあることから、利用率(年間:各施設利用日数(コマ数)÷開館日数(コマ数))により評価を行う。平成30年度と比較すると、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、施設を閉館(貸館停止)したことで全体的に利用率が低下した。【成果指標②】</p>

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H30年度	R1年度	決算額(円)
	①文化講座※		参加者数	人	1,658	1,392
②文化センター(決算額は指定管理委託料)		利用率	%	28.8	25.7	H30 40,000,424 R1 38,999,997

※各教室開催経費は指定管理委託料に含まれている。

③事業の課題	【継続的な課題】
	<p>①施設の維持管理</p> <p>・経年劣化による不具合や故障が頻発しており、計画的に改修する必要がある。</p> <p>②文化講座の受講者の世代による偏りをなくし、多くの世代が受講できるような工夫が必要。</p>
	【新たな課題】
	①新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策のため、通常の施設利用が難しくなっている。

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】
	<p>①施設の修繕については、緊急性を勘案しながら計画的に改修する。今後は令和2年度に長寿命化計画を立ててそれに基づき修繕を行っていく。</p> <p>②幅広い世代の受講者のニーズを的確に捉えて、魅力ある講座を開講し、受講生の増加を図る。</p>
	【新たな課題に対する改善方法の検討】
	①感染症対策備品の充実。各施設(部屋)の定員を減じて設定し、感染リスクを軽減する。講座の施設利用が困難になっており、少人数で開講できる対策が必要。各文化講座を2部制にする等の対応策を検討する。

6 今後の計画・方向性(PPLAN)

事業の計画・今後の方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持	※事業の方向性について、現状維持が見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し	(内容) <input type="checkbox"/> 予算拡充 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 事業拡大 <input type="checkbox"/> 事業縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 休止・廃止
<p>・指定管理業務委託による一定の成果があることから、今後も教育委員会事業と文化振興財団事業の連携により、住民の自主的な文化活動の支援体制を強化する。例えば自主活動が評価されている『川柳教室』のように、優れた講師による活動の基礎を住民に提供できるよう、リサーチ活動を強化していく。</p> <p>・文化センターの設備を改修することにより、改修期間中の利用率は低下するが、長期的な運用に耐えられるよう施設や設備の維持・管理計画を策定し、改修を行っていく。</p> <p>・感染症対策と施設使用のニーズのバランスをとりながら運用していく。</p>		

令和元年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑮文化活動への支援	担当課名	生涯学習課	教育大綱位置づけ	Ⅱ「教育なら三郷町」 Ⅲ「住み続けるなら三郷町」
基本方向	<ul style="list-style-type: none"> 文化活動団体について、地域の文化活動を支える方たちを掘り起こし、それぞれに魅力を持ちながら、会員の輪を広げていきます。 今後も、文化活動団体育成のための支援に努めます。 				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな分野から生涯学習の指導者等を掘り起こし、文化活動はもとより身近な生活課題や地域づくり等につながる学習活動の支援ができるシステムを構築する。 ○三郷町各種団体等運営補助金交付要綱に基づき、各種団体の活動及び運営に要する経費の一部を補助金として交付し、文化の振興及び向上を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ①三郷町文化協会 ②三郷町地域婦人団体連絡協議会 ③三郷町子ども会連合会 ④三郷町民文化祭実行委員会 ⑤三郷町芸術祭美術展実行委員会
---------	--

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習の指導者等の活用支援 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の学級や子ども人権学習支援事業の講師等の選定に際し、地域の団体・個人と連携を図ることにより、継続した講師依頼はもとより、新たな指導者の掘り起こしができた。 ①家庭教育学級 7回(健康学習2回、創作3回、教養講座2回) ②長寿学級 5回(文化講演2回、健康体操1回、軽スポーツ1回、音楽鑑賞1回) ③くれない学級 6回(文化講演1回、健康体操2回、創作1回、音楽鑑賞1回、調理教室1回) ④つながり学級<三郷町子ども人権学習支援事業> 6回(軽スポーツ、天体観測、ものづくり体験、凧作り・凧揚げ体験、科学遊び、お茶体験中止) ○団体への助成 <ul style="list-style-type: none"> ①三郷町文化協会(補助金額:670,000円) 主な事業:総会、文化協会まつり、文化協会講演会、人権学習会及び随時役員会を開催。第51回三郷町民文化祭の運営協力をはじめ、研修会等を開催し、会員の教養の向上を図った。 ②三郷町地域婦人団体連絡協議会(補助金額:176,799円) 主な事業:総会、町の各事業への参加。また、老人福祉施設でのボランティア活動を実施。 ③三郷町子ども会連合会(補助金額:236,910円) 主な事業:総会や子ども会の日(8月8日(木))にプール遊び等を実施。その他、リーダー研修会、まぜこじやの会、どろんこあそびの会等を開催。 ④三郷町民文化祭実行委員会(補助金額:1,309,935円) 主な事業:展示・発表を合わせて67団体の参加のもと「第51回三郷町民文化祭」を10月26日(土)、27日(日)に、フリーマーケット、移動動物園等を併せて開催。展示会場には2日間で2,549人の来場者があり、前年に比べ410人の減。 ⑤三郷町芸術祭美術展実行委員会(補助金額:387,554円) 主な事業:「第32回三郷町芸術祭美術展」を9月12日(木)～9月15日(日)に開催。172点の作品が出展され、開催期間中910人の来場者があった。
---------	--

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ○生涯学習の指導者等の活用支援 ・地域の指導者等の協力を得て生涯学習を実施することで、より活発な活動ができた。 ○団体への助成 ・文化の振興、芸術の向上に寄与するため、各種団体に補助金を交付し運営の活性化を図った。 【成果指標①】
	○三郷町民文化祭実行委員会 ・令和元年10月26日(土)・27日(日)に三郷町文化祭を実施。三郷町民の積極的な参加を促し、67団体による展示・発表を行った。展示会場の来場者は2,549人で昨年より減少しているが、屋外イベント拡大による来場者の分散があり、全体の来場者数としては増加傾向にある。【成果指標②】 ○三郷町芸術祭美術展実行委員会 ・令和元年9月12日(木)～15日(日)に第32回三郷町芸術祭美術展を開催し、町内外から172点の作品の出品のもと盛況に開催。来場者数は目標の1,000人に届かなかったが、昨年に続き900人超えを維持。 【成果指標③】

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H30年度	R1年度	決算額(円)	
	①各団体への補助金(文化協会・婦人会・子ども会)		会員数	人	1,149	983	H30
R1							1,083,709
②三郷町民文化祭実行委員会		参加団体数	団体	74	67	H30	1,309,213
		来場者数	人	2,959	2,549	R1	1,309,935
③三郷町芸術祭美術展実行委員会		来場者数(展示会場)	人	928	910	H30	369,644
						R1	387,554

③事業の課題	【継続的な課題】 ①生涯学習の各種事業実施にあたり、地域に埋もれている指導者等の人材を掘り起こすシステムづくりが必要である。 ②三郷町地域婦人団体連絡協議会については、会員数を増加し、組織力を強化する必要がある。 ③三郷町には文化活動推進を目的とする補助団体として、公益財団法人三郷町文化振興財団及び三郷町文化協会があり、文化芸術を推進する補助事業として文化祭及び芸術祭美術展がある。これまで、それぞれの団体や事業において独自に活動を続けてきた経緯があるが、現状ではいずれも会員や入場者数を確保することに苦慮しており、今後活動の連携が必要である。 ④三郷町民文化祭の運営に係る人材及び人員不足。 ⑤三郷町芸術祭美術展の目標来場者数(1,000名)の確保。
	【新たな課題】 ①新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の影響下での大規模イベントの開催方法。

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①文化センターで行っている文化教室などと情報交換を行い、地域の人材を把握できる体制を構築。 ②地域婦人団体連絡協議会の会員募集を引き続き広報をはじめ、いろいろなツールを活用して周知する。 ③他のイベントとの共同開催や、他団体の教室等に積極的に参加をし、交流することにより、相互の団体・事業の活性化を図る。 ④町民文化祭は町の一大イベントなので、全庁的な協力を依頼し、動員をかけることを検討。 ⑤より一層の積極的な広報活動を行い、出品品数を増やし、来場者数が増加するよう努める。
	【新たな課題に対する改善方法の検討】 ①イベント開催形態の見直しと適切な感染症対策を実施し、持続可能なイベント内容等を検討する。

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し	(内容) <input type="checkbox"/> 予算拡充 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 事業拡大 <input type="checkbox"/> 事業縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 休止・廃止 ・様々な学習活動の支援を得る中で人材の発掘及び指導者の育成を行い、将来的には分野の垣根を越えて、指導者又は講師として活躍できるよう支援する。 ・文化活動団体・個人に対し、費用面、活動場所や機会の提供等の多面的な支援の継続をしながら、団体間の交流を勧奨する。

令和元年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑯図書館の充実	担当課名	図書館 (生涯学習課)	教育大綱位置づけ	Ⅱ「教育なら三郷町」 Ⅲ「住み続けるなら三郷町」
基本方向	・住民の生涯学習に対するニーズに応えるため、蔵書・資料の充実を図り、資料収集を継続します。 ・誰もが気軽に利用できる住民の学習、ふれあいと憩いの場とするため、各種館内サービスや行事の充実に努めます。				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	○資料・情報の提供 図書、雑誌、新聞をはじめ、CD・DVDなどの音響・映像資料を含む各種の図書館資料を幅広く収集し、子どもから高齢者までそれぞれの年齢層に合った資料を迅速かつ的確に提供する。また、館内のインターネットアクセス端末によりネット情報の提供も行う。 ○子どもの読書の推進 絵本や児童図書の利用の促進（季節やテーマに沿った絵本の面展示・表紙の展示、小中学生向け調べもの学習資料の充実）とともに、乳幼児向け（ブックスタート、ゆりかごおはなし会）、児童生徒向け（おはなし会、土曜の午後のおはなし会、夏・冬のつどい、本の森探検隊）の年齢層に合わせた行事を継続して行うことにより、子どもの読書推進を図る。 ○生涯学習事業の推進 映画上映会や童謡コンサートなど、各種講演会や演奏会を実施して、人々が集い交流する生涯学習の場を提供する。
---------	---

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	○令和元年度統計				
		平成30年度	令和元年度		
		蔵書冊数	250,874冊	254,283冊	
		入館者数	195,362人	165,241人	
		貸出人数	92,110人	83,600人	
		貸出冊数	280,247冊	252,863冊	
		ネット予約人数	6,632人	6,278人	
		ネット延長人数	6,718人	6,128人	
		HPアクセス数	78,438回	86,521回	
		読書通帳(累計)	3,818冊	4,616冊	
		○図書館行事			
		行事名	概要	参加人数(人)	
				平成30年度	令和元年度
		◆ブックスタート	11ヶ月健診にあわせて赤ちゃんと保護者を絵本の世界に誘い赤ちゃんの成長の手助けをする	125	100
		◆ゆりかごおはなし会	0～2歳の幼児と保護者を対象に絵本の読み聞かせ・手遊びなど	123	105
	◆おはなし会	小さい子どもと大きい子ども向けに分けて絵本の読み聞かせやストーリーテリングなど(毎週日曜日)	731	690	
	◆土曜の午後のおはなし会	お話しボランティアによる絵本の読み聞かせや折り紙	102	93	
	◆夏のつどい	ペープサートや人形劇など子ども向けの行事	52	62	
	◆映画上映会	名作映画の上映会	2,253	1,581	
	◆アニメ映画会	子ども向けアニメ映画の上映会	328	830	
	◆本の森探検隊	テーマを設定した本を探しながら、楽しみつつ本に親しむイベント	51	71	
	◆フロアコンサート	図書館の開架室でギターマンドリンコンサート	248	197	
	◆大人のためのストーリーテリング	大人向けにストーリーテリングの面白さを伝えるイベント	37	29	
	◆四国八十八か所講演会	四国霊場を徒歩で回られた方からの体験談の講演会	31	41	
	◆小学生一日図書館員体験	図書館業務を通して、仕事の大切さを知ってもらう	6	6	
	◆本の帯コンテスト	子供たちがお気に入りの本の帯を作成し、展示する	14	12	
	◆野菜作りの裏ワザ講演会	野菜作りに役立つ裏ワザの講演会	71	—	
	◆冬のつどい	ペープサートや人形劇など子ども向けの行事	103	45	
新	◆おりがみ教室	親子で一緒に折り紙を折る	—	21	
新	◆手作りカード教室	親子で一緒にメッセージカードを作る	—	13	
新	◆秋の朗読会	各自が選んだ本を朗読して互いに紹介する	—	12	
	◆龍田古道写真展	町内在住の写真家による龍田古道の写真展示会	508	—	
	◆ブックリサイクル	除籍済の図書資料を住民に提供	1,960	702	
	◆ぬいぐるみのおはなし会	ぬいぐるみと一緒におはなし会の後、図書館で遊んでいる姿をアルバムにしてプレゼント	15	15	
	◆ナースのたまごと健康体操(ピブリオバトル)	信貴山看護学校生徒による健康体操及びお薦め図書の発表会	17	20	
	◆歌のつどい	皆で童謡を歌える場所を提供する	130	159	
	◆童謡コンサート	武鹿悦子先生作詩の童謡・唱歌の演奏会	149	—	
	◆クリスマスコンサート	町内コーラス団体等による演奏会	106	180	
		計	7,160	4,984	
	※◆マークは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止(一部中止)した行事				
	○リクエスト・相互貸借サービス 図書館で所蔵していない図書の申込みに対して、購入もしくは近隣図書館からの貸借を行い、提供している。近隣の図書館と提携することで、既に絶版の本や長編シリーズなど、購入できない図書を迅速に提供する。また、町民が県立図書情報館で借りた図書を当館のカウンターで返却できるサービスを実施している。				

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	<p>※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。</p> <p>○資料情報の提供 資料購入数は前年度に比べ、141冊(枚)の減少となった。引き続き、話題の図書などに注意しながら、可能な限り住民のリクエストなどの要望に応えるよう予算の範囲内で各種資料の内容充実に努め、入館者数や貸出冊数の増加に繋がるような資料収集を行う。【成果指標①】</p> <p>○子どもの読書推進 従来の児童向け事業に加え、親子で一緒に参加する事業を実施。しかし、新型コロナウイルスの影響を受け、お話し会等の事業参加者数が軒並み減少となったものの、夏休み・祝日のアニメ上映会の回数を増やしたことで、子どもの読書推進事業については参加者数の増加となった。【成果指標②】</p> <p>○生涯学習の推進 新型コロナウイルスの影響で人気の行事を相次いで中止もしくは縮小したことから、全体的に参加者数が大幅に減少となった。一方、上映会やブックリサイクル等は、早期の再開を望む声が多く寄せられているが、新型コロナウイルス感染拡大の第2波、第3波に備え、常にコロナの状況を注視し、再開のタイミングを図りながら事業推進に努めていきたい。【成果指標③】</p>
-------------	---

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H30年度	R1年度	決算額(円)		
	①資料情報の提供	図書・雑誌・CD・DVD等購入数	冊(枚)	6,777	6,636	H30	9,376,098	R1
②子どもの読書推進	参加者数	人	1,650	2,063	H30	98,496	R1	104,720
					③おとなの読書推進	参加者数	人	5,510

③事業の課題	<p>【継続的な課題】</p> <p>①ネットの普及による入館者数の減少。</p>
	<p>【新たな課題】</p> <p>①「読書バリアフリー法」に対応する環境づくり。 ②コロナ禍により減少した来館者の回復。</p>

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	<p>【継続的な課題に対する改善方法及び結果】</p> <p>①インターネット経由での予約・貸出延長・蔵書検索等が可能となったことで、入館者数にも影響しているが、近年インターネット等の他メディアの躍進により、読書離れが進んでおり、奈良県下の図書館でも入館者・貸出冊数は減少傾向にあることに加え、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う来館者数の減も大きい。今後も参加型のイベントを多く企画し、関連する図書を提供することで普段読書に関心のない方も図書館に親しんでもらい、引き続き入館者・貸出冊数の増加を図る。</p>
	<p>【新たな課題に対する改善方法の検討】</p> <p>①令和元年6月に成立された「読書バリアフリー法」は、障がいの有無にかかわらず、すべての方が等しく読書ができる環境を整備する法律である。当館でも視覚障がい者を始め、何らかの理由で図書館に来ることができない方たちに対して、①サビエ図書館(インターネット上で音声書誌をダウンロードできるサービス)の実施 ②CD再生機の貸出 ③大活字本、朗読CDの充実 ④思いやり駐車場の設置等を順次実施し、図書館の基本理念である「誰でも利用できる図書館」として新たな利用者層の獲得を目指す。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年3月より休館となったことに伴い、入館者数・貸出冊数とも大幅に減少した。今後、入館者を取り戻すためには、現在行っている新型コロナウイルス対策(①入口での体調チェック ②手指消毒&マスク着用の徹底 ③返却本の消毒)等を徹底し、図書館が安全な空間であることを住民にアピールすることで入館者数の回復を目指す。</p>

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持 <p>※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)</p>
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し <p>(内容) <input type="checkbox"/>予算拡充 <input type="checkbox"/>予算削減 <input type="checkbox"/>事業拡大 <input type="checkbox"/>事業縮小 <input checked="" type="checkbox"/>手法見直し <input type="checkbox"/>休止・廃止</p> <p>・町民に対して十分な資料や情報を提供できるよう、図書館の基本的業務の履行はもとより、様々な行事を通じて図書館の魅力を最大限にアピールし、「三郷町まちづくり総合戦略」の目標達成を目指す。また、生涯教育の推進を始め、ひとりでも多くの方が憩いの場として利用できる図書館の環境づくりを積極的に進める。</p> <p>・利用者の意見や要望を真摯に受け止め、利用者一人ひとりが満足できる図書館となるよう、充実した資料の収集や豊かな情報の提供に努める。</p> <p>・年齢、性別、そして障がいの有無にかかわらず、本をいつでも、どこでも、それぞれのニーズに応じた方法で提供できる図書館づくりに努める。</p>

令和元年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	①文化財の保護と活用	担当課名	生涯学習課	教育大綱位置づけ	Ⅲ「住み続けるなら三郷町」
基本方向	<ul style="list-style-type: none"> ・国・県と連携しながら文化財保護に努め、案内看板・説明看板の整備など環境の整備に努めます。 ・民間団体による調査活動を支援するとともに、住民団体と協力して歴史的資料の発掘及び保全・管理をするための調査を進めます。 ・文化財の保全・管理・展示を行う郷土資料室のあり方について検討します。 ・文化財ボランティアの育成に努めながら、地域の歴史にふれる機会の充実を図ります。 				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	<p>◎文化財の保護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後世に継承すべき文化財の保護保存をしていくため、国・県等の関係機関と連携を図りながら町内の文化財の確認作業及び指定文化財等への保存助成、環境整備を行う。 <p>○文化財の啓発・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内の文化財について、町内外の方々に広く周知できるよう企画立案する。 ・文化センター内に設置している「郷土資料室」の有効な活用を図る。 ・龍田古道等の歴史遺産の日本遺産登録。 <p>○地域の歴史学習の機会の提供等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の一環として、地域の歴史を学ぶ教室を開催する。また、歴史・文化財に係る地域のグループ等がより充実した活動ができるよう協力・支援する。
---------	--

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	<p>◎文化財の保護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、3月28日付で三郷町指定有形文化財として「近畿日本鉄道旧東信貴鋼索線車両」、三郷町指定史跡として「近畿日本鉄道旧東信貴鋼索線軌道跡」を指定。併せて、未指定の文化財についても文化財台帳において現況確認を実施。また、指定文化財の保存及び活用については、その所有者と連携を図り、適切に対応した。 ・遍照院シダレザクラ（町指定）の樹木消毒にかかる維持管理経費の一部助成を実施。 ・奈良県からの委嘱により、定期的に町内文化財の巡視及び適宜適切な保護を実施。 ・龍田大社が神楽殿の建替えを行ったことに伴い、所蔵されていた木造獅子・狛犬及び扁額の学術的調査を実施。 <p>◎文化財の啓発・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県の文化資源活用補助金を活用し、三郷町内の万葉集に関係する既設の看板において、QRコードによる多言語翻訳を行う他、万葉歌を音声で聴ける動画用のQRコードを設置した。 ・地域に関する歴史の研究グループ「史学さんごう」との共催で、11月3日（日）に文化講演会「馬がつないだ龍田古道～平群駅家と津積駅家～」(講師：柏原市立歴史資料館館長 安村 俊史氏)を開催。 ・三郷小学校児童の文化センター郷土資料室見学の際に、「史学さんごう」及び学校ボランティアの協力のもと農具や古民具について説明。 ・柏原市と共同で「もう、すべらせない!!～龍田古道の心臓部「亀の瀬」を越えてゆけ～」というテーマで日本遺産申請を行った。 ・萬葉学会との共同開催による2020年の萬葉学会全国大会に向けて準備を行う。 ・新元号「令和」を記念し、地域に関する万葉集の研究グループ「みさと万葉プロジェクト」発行の冊子『わがふるさとの万葉歌』改訂版の編集協力。 ・Yuki子どもアトリエで制作している「龍田百人一首」の編集及び制作協力。 ・三郷北小学校に保存展示されていた近畿日本鉄道旧東信貴鋼索線コ9形9車両の修繕を行い、近鉄信貴山下駅前ロータリー広場に移設した。 ・三郷町と帝塚山大学との間で包括連携協定を締結。東信貴ケーブル跡の活用のほか、信貴山観光や日本遺産に関連した事象についても連携していく。 <p>○文化・歴史学習の機会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の学級のひとつとして「歴史教養講座」を本年度も開講し、身近な歴史等を学ぶ機会を提供。また、三郷町にまつわる万葉歌が多く詠われていることから、万葉歌人の感性や歴史的な背景を学ぶため、「みさと万葉学習会」を開講。 <p>○埋蔵文化財</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県に業務委託を行っていた『勢野東遺跡発掘報告書』の作成が完了した。 ・國學院大学との合同調査で行った町指定史跡「三室山古墳二号墳・三号墳」の3D測量データの編集を完了。 ・町内の開発行為等に際して発掘調査が必要となったことから、王寺町の協力を得て調査を実施。 ・奈良県内市町村埋蔵文化財技術担当者連絡協議会にオブザーバーとして参加し、埋蔵文化財業務の他市町村との連携を図った。
---------	---

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	<p>※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化財の保護・啓発・活用 <ul style="list-style-type: none"> ・指定文化財の維持管理に伴う経費を効率よく助成することができた。また、東信貴鋼索線関連文化財を町指定文化財に新たに指定するとともに、車両の修繕及び同車両の近鉄信貴山下駅前への移設業務により、前年度と比較して決算額が大幅に増加したが、今後は町のランドマークとして、また「童謡の町」や信貴山観光、龍田古道観光の起点として活用していく。【成果指標①②】 ・文化財や言葉解説についてQRコードを活用した多言語翻訳を行うことで、インバウンドに対応した解説板を前年度に引き続き設置。【成果指標③】 ・平成23年度より奈良県に作成業務を委託していた「勢野東発掘調査報告書」が完成。【成果指標④】 ・文化財保護週間に合わせ、教育委員会と住民団体である「史学さんごう」の共催による「史学さんごう文化講演会」は毎年好評を得ている。【成果指標④】 ・大学や学会、他の研究機関と連携することにより、町内の文化財の学術的な価値を向上させるほか、観光やまちづくり等の分野においても成果が出ている。【成果指標⑥】 ○学級の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・「歴史教養講座」は58人、「みさと万葉学習会」は79人の登録があり、昨年度より増加している。
-------------	---

	事業名	成果指標名	単位	H30年度	R1年度	決算額(円)	
						H30	R1
②成果指標	①指定文化財等の保全	文化財の保全	件	1	2	77,400	40,738,400
	②新たな町指定文化財の指定	町指定文化財の数	件	10	12		
	③多言語対応の解説板の設置	歌碑・説明看板の設置	件	4	3	699,840	410,850
	④勢野東遺跡発掘調査報告書作成業務	印刷及び配布冊数	冊	—	321	0	1,570,000
	⑤史学さんごう文化講演会	参加人数	人	210	180		
	⑥大学等の他の研究機関との連携	件数	件	3	5		

③事業の課題	<p>【継続的な課題】</p> <p>①指定文化財に修理等の必要が生じた際の所有者の負担に対する国・県・町の各補助制度はあるが、現状は所有者の負担が大きく、指定文化財を維持していくには所有者の理解と協力が長期間にわたって必要ことから、所有者の負担を極力軽減する施策の検討が必要である。</p> <p>②国の観光施策の活性化に伴い、奈良県も県下の歴史・文化財を活かした事業を多く打ち出しており、町の業務量も増加している。また、三郷町においても隣接する柏原市と連携し、龍田古道の日本遺産登録を目指していることから、観光事業や開発事業をはじめ、文化財を所有する社寺等と連携した長期的かつ専門的な保存計画の策定及びそれに係る専門技師の確保が必要である。</p>
	<p>【新たな課題】</p> <p>①三郷町内の埋蔵文化財包蔵地内における開発行為等の際に必要な確認調査に関して、奈良県内では奈良県立権原考古学研究所が市町村に代わって実施していた経緯があったが、近年研究所の職員数の減少もあり、全ての案件が奈良県が処理できなくなっている。これに伴い、今年度も当町で発掘作業を行うケースが発生し、人員の関係から王寺町への協力依頼を行わざるを得なくなった。しかし、他市町村への協力依頼は緊急の臨時的な対策であり、根本的な問題解決のためにも、埋蔵文化財の技師の確保が急務である。</p>

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	<p>【継続的な課題に対する改善方法及び結果】</p> <p>①文化財の所有者と教育委員会で定期的に意見交換を行い、現状確認を行う。また、所有者負担が過剰にならないよう、国・県に対して補助を要望するとともに、町の補助制度の拡充及び見直しも検討する。</p> <p>②文化財や観光に関わる業務体制の拡充及び長期的に町内の文化財を管理、研究できる専門職員の配置を検討する。</p>
	<p>【新たな課題に対する改善方法の検討】</p> <p>①継続的な課題の②とも合わせ、埋蔵文化財・各指定及び未指定文化財・観光に関わる専門業務に対応できる専門職員の配置及び体制の整備を引き続き検討する。</p>

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持 <p>※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)</p>
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し <p>(内容) <input type="checkbox"/>予算拡充 <input type="checkbox"/>予算削減 <input checked="" type="checkbox"/>事業拡大 <input type="checkbox"/>事業縮小 <input type="checkbox"/>手法見直し <input type="checkbox"/>休止・廃止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財を観光資源の一つとし、今後も既設案内看板等の補修及び新設を行い、インバウンド等の事業の活性化を図る。 ・住民団体を活用し、定期的な文化財の調査から講演会等の啓発イベントの運営等、一貫した協力体制を構築する。 ・国や県、他市町村の関係機関及び大学等の研究機関と情報交換を行い、更なる連携強化を図る。 ・専門的な立場で豊富な知識を持った職員を確保し、他の関係部局との相互サポートを含め、三郷町の歴史や文化財の学術的な保存・活用に係る業務を展開する。

令和元年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑩生涯スポーツの推進	担当課名	生涯学習課	教育大綱位置づけ	Ⅲ「住み続けるなら三郷町」
基本方向	<ul style="list-style-type: none"> 誰でも継続的に気軽に楽しめるスポーツの機会を提供するため、指導者やボランティアリーダーの育成に努めます。 健康づくりや交流の場となる軽スポーツの普及に努めます。 青少年のスポーツ活動の振興を図り、そのための環境整備や自主的な活動への支援に努めます。 				

2 事業概要・目的(PPLAN)

事業概要・目的	<p>○スポーツの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツを通して町民が生涯にわたり心身ともに健康な生活を営むため、三郷町体育協会や三郷町スポーツ少年団及び三郷町スポーツ推進委員などと連携し、スポーツを推進するとともに、身体づくり及び健康づくりを図る。 <p>○軽スポーツ事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分にあったスポーツライフの実現と競技の技量を身につけてもらえるように、各種軽スポーツ大会等を実施する。 <p>◎総合型地域スポーツクラブへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民の主体的な運営により、すべての世代の住民が楽しめる総合型地域スポーツクラブ「元気☆ひまわりクラブ三郷」が自立して運営できるよう支援を行う。
---------	---

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	<p>○スポーツの推進</p> <p>①町民マラソン・駅伝大会の開催 地域住民がイベントを通じてスポーツに親しみながら、健康増進することを目的として、三郷町スポーツ少年団や各種団体の協力のもと、三郷町体育協会主催で町民マラソン・駅伝大会(於：竜田運動公園)を1月26日(日)に開催した。</p> <p>②野球審判講習会 盛んなスポーツのひとつである野球の試合等の審判及び指導者の育成を行うとともに、ルール等の改正にも適宜対応できるよう、6月2日(日)に審判講習会を開催した。</p> <p>③関係団体に補助金の助成 【三郷町体育協会】 補助金額 2,259,839円 【三郷町スポーツ少年団】 補助金額 722,418円</p> <p>④三郷町スポーツ推進委員 スポーツ振興のため、子ども人権学習支援事業などに出向き、住民に対しスポーツの実技指導等を行った。</p> <p>⑤軽スポーツ事業 三郷町体育協会主催で9月15日(日)に「軽スポーツ大会」を開催し、軽スポーツの普及に取り組んだ。</p> <p>⑥総合型地域スポーツクラブへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> スポンサーの確保 教室開催場所(グラウンド)の優先確保 教室の夜間開催 10教室 350回開催 延べ参加者2,423名 教室の土曜開催 2教室 45回開催 延べ参加者 337名 夏休みに、小学生向けのジュニアサッカー教室を4回行い、延べ63名の参加があった。 <p>また、同クラブの主な事業となる各種教室については、未就学児・小学生向けのキッズダンスやジュニアサッカー、ジュニアテニス、また、一般・シニア世代向けにノルディックウォーキング、太極拳や様々な種類のヨガ教室など40教室を展開。 全ての教室における開催回数は延べ1,461回で、参加人数は延べ9,404人。</p>
---------	---

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	<p>※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。</p> <p>○関係団体への補助金による助成 ・「三郷町体育協会」及び「三郷町スポーツ少年団」に運営補助金を交付し、組織の育成及び強化を図った。【成果指標①②】</p> <p>○スポーツの推進及び軽スポーツ事業 ・三郷町体育協会及び三郷町スポーツ少年団等の協力のもと、町民マラソン・駅伝大会を1月26日(日)に開催した。【成果指標①】 ・三郷町スポーツ推進委員が地域に出向き、軽スポーツ等の振興を図った。</p> <p>◎総合型地域スポーツクラブ ・土曜日・夜間の教室を開催し、会員数の増加を図った結果、前年の323人から343人となり、順調に会員数を伸ばしている。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、3月が休講となった影響で、年間の教室参加人数は減少した。【成果指標④】</p>
-------------	---

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H30年度	R1年度	決算額(円)
	①三郷町体育協会事業	参加人数	人	1,899	1,843	H30 2,483,927 R1 2,259,839
②三郷町スポーツ少年団事業	参加人数	人	263	182	H30 731,107 R1 722,418	
③町民体育祭	競技参加人数	人	3,000	中止	H30 866,839 R1 569,776	
④総合型地域スポーツクラブ事業	教室参加人数	人	9,918	9,404	H30 R1	

③事業の課題	<p>【継続的な課題】</p> <p>①総合型地域スポーツクラブの運営にスポーツくじ助成金を平成27年度から5年間受けていたが、令和元年度で完了する。令和2年度以降については、新たに3年間の助成金を受けるものの、従前の半分程度に減額となることから、今後の運営はより厳しくなる。助成金の交付が完了するまでに、継続的な自立運営ができるよう、教室の実施場所や人材の確保、クラブ運営システムの確立が必要である。</p> <p>【新たな課題】</p> <p>①過去3年間、体育協会加盟の連盟数が毎年度1団体づつ増加していたが、団体の高齢化もあり、今年度末に1団体が脱退した。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の諸対策により、全ての事業が影響を受けることが予測される。状況に適応すべく、運営方法等を模索していく必要がある。</p>
--------	--

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	<p>【継続的な課題に対する改善方法及び結果】</p> <p>①現状の文化センター主体の教室運営を行う場合、施設の優先利用及び施設使用料減免等の検討が必要となる。また、文化センターの一般の利用者との関係で、これまで以上の優先利用が難しい部分もあることから、他の施設を利用した教室運営も検討していく。</p> <p>【新たな課題に対する改善方法の検討】</p> <p>①体育協会連盟加入の積極的な呼びかけを行い、連盟数及び参加人数の増加を目指す。</p> <p>②スポーツ活動と感染症対策を両立した新たな運動スタイルを模索していく。</p>
------------	---

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持 ※事業の方向性について、現状維持が見直しを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し (内容) <input type="checkbox"/>予算拡充 <input type="checkbox"/>予算削減 <input type="checkbox"/>事業拡大 <input type="checkbox"/>事業縮小 <input checked="" type="checkbox"/>手法見直し <input type="checkbox"/>休止・廃止 <p>・総合型地域スポーツクラブ「元気☆ひまわりクラブ三郷」の自立運営を目指し、新たな種目の追加をはじめ、町が進める健康づくり・介護予防につながる教室の検討や感染症対策も兼ねたりリモート教室等の開催により、クラブ入会に係るPRを積極的に実施。</p> <p>・各団体において、新型コロナウイルス感染症の拡大防止体制の中での活動を意識し、情報共有を行う。</p>

令和元年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑨スポーツ施設の整備	担当課名	生涯学習課	教育大綱位置づけ	Ⅲ「住み続けるなら三郷町」
基本方向	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの人が気軽に生涯スポーツを楽しめるよう、現有施設の有効利用を図り、誰もが利用しやすい施設改善を図ります。 ・自主的・主体的な総合型地域スポーツクラブの運営を支援をします。 				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ施設の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・施設の整備・充実を図るとともに、生涯スポーツと競技スポーツを連携し、運動能力向上の拡充に努めることを目的に、地域スポーツの振興と拡大を図る。 ○指定管理制度の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・民間の経営や事業展開のノウハウを活用し、より充実したスポーツ施設の管理運営を行うため、スポーツセンター及びウォーターパークを合わせて指定管理により運営する。
---------	--

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ施設の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・経年による各施設の維持修繕が必要になっていることから、随時、修繕及び改修を行い、施設利用に支障のないよう安全安心な施設運用を行った。 ①竜田運動公園 <ul style="list-style-type: none"> 利用種目：成人及び学童軟式野球、ソフトボール、グラウンドゴルフ、サッカー、テニス等 施設整備：テニスコート砂補充、真砂土の入替え、テニスネット修繕、トラクター修繕、敷地道路修繕、小便器修繕、管理棟エアコン設置、テニスコート防風防砂ネット設置、テニスコート改修等 (決算額：4,024,310円) ②勢野グラウンド <ul style="list-style-type: none"> 利用種目：学童軟式野球、女子ソフトボール、少女ソフトボール 施設整備：真砂土の入替え (決算額：223,020円) ③スポーツセンター <ul style="list-style-type: none"> 利用種目：卓球、軽スポーツ、少林寺拳法、健康体操、バレーボール等 施設整備：バルコニー改修、防球ネット改修、ランニングマシン入替 (決算額：2,030,940円) ④ウォーターパーク <ul style="list-style-type: none"> 施設整備：スライダ改修、排気ピット改修、トイレ及び更衣室改修、雨水排水槽改修及び清掃監視カメラ取替及び増設 (決算額：13,480,560円) ⑤中央公園多目的広場 <ul style="list-style-type: none"> 利用種目：成人及び学童軟式野球、ソフトボール、グラウンドゴルフ、サッカー等 施設整備：グラウンドの凍結防止工事、看板設置、防球ネット修繕、塁ベース埋設工事等 (決算額：1,588,974円) ○指定管理制度の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・民間のノウハウを活かし、効率的かつ効果的な施設運営を行うため、平成30年度から5年間スポーツセンター及びウォーターパークを合わせて(株)翔成へ指定管理業務を委託。 (指定管理料 平成30年度から令和4年度まで合計112,417,000円)
---------	---

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	<p>※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。</p> <p>○スポーツ施設の整備 ・修繕や施設改修を行い、安全で安心な施設運営を図った。</p> <p>○スポーツ施設の運用 ・利用者の体力の維持・増進や健康で明るい生活の充実、また、利用者同士の親睦に寄与した。 また、中学校新校舎完成に伴い、部活動の利用がなくなった他、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため約1カ月間施設を閉鎖したことにより、グラウンドやスポーツセンター等の利用者数が減少した。</p> <p>○指定管理制度の導入 ・平成22年度以降、ウォーターパーク及びスポーツセンターを合わせて指定管理とし、民間のノウハウを活かして、効率的・効果的な施設運営と経費の削減が図れている。なお、現行の指定管理業務委託は、平成30年度から令和4年度までの5年間で引き続き(株)翔成に委託。))</p>
-------------	--

	施設名	成果指標名	単位	H30年度	R1年度
②成果指標	①健民グラウンド	利用者数	人	58,105	25,580
	②テニスコート	利用者数	人	11,010	8,366
	③中央公園多目的広場	利用者数	人	45,360	40,256
	④勢野グラウンド	利用者数	人	5,326	2,632
	⑤スポーツセンター	利用者数	人	99,308	84,218
	⑥ウォーターパーク	利用者数	人	58,722	53,200

③事業の課題	<p>【継続的な課題】</p> <p>①施設の維持管理 ・各施設の経年劣化による不具合や故障が頻繁に発生し、維持管理が困難になっているため、計画的な施設改修等が必要である。</p> <p>②総合型地域スポーツクラブの自主運営には、教室数及び会員数を増加させる必要があるが、新教室を開講する場所がない。</p> <p>【新たな課題】</p> <p>①新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、通常の施設利用が難しくなっている。</p>
--------	---

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	<p>【継続的な課題に対する改善方法及び結果】</p> <p>①施設改修等については、財政状況を勘案し、緊急性の高いものから計画的に改修等を行う。 今後は令和2年度に長寿命化計画を策定し、それに基づき修繕を行っていく。</p> <p>②総合型地域スポーツクラブの自主運営に向けて、学校開放制度を有効活用した。引き続き、その他の施設の空いている場所・時間を有効活用していく。</p> <p>【新たな課題に対する改善方法の検討】</p> <p>①感染症対策備品の充実。各施設(部屋)の定員を減じて設定し、感染リスクを軽減する。利用者の理解と協力を得ることが出来る施設運用システムを構築する。</p>
------------	---

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持	<p>※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)</p> <p>(内容) <input type="checkbox"/>予算拡充 <input type="checkbox"/>予算削減 <input type="checkbox"/>事業拡大 <input type="checkbox"/>事業縮小 <input checked="" type="checkbox"/>手法見直し <input type="checkbox"/>休止・廃止</p>
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し	
<p>・スポーツセンター、ウォーターパークの設備を改修することにより、長期的な運用に耐えられるよう施設や設備の維持・管理計画を策定し、改修を行っていく。</p> <p>・感染症対策と施設使用のニーズのバランスをとりながら運用していく。</p>		

IV 学識経験者の知見の活用

1. 点検評価有識者：奈良学園大学 副学長 金山 憲正

令和元年度実施分の点検・評価を行うにあたり、客観性を確保するため、学識経験者に点検評価を依頼し、今年度の報告書の総括と次年度以降に改善すべき課題として、以下の指導及び助言を受けた。

2. 指導・助言の内容

- 教育に関する施策及び事業が前年度の「見直し」を基に計画的に推進される、それらの取り組みに対する点検・評価が全般にわたり適切に行われている。
- 「三郷町教育大綱」の基本目標となる「子育てなら三郷町」「教育なら三郷町」「住み続けるなら三郷町」の3つの基本目標のもとに19の「点検・評価項目」を設定し、それぞれの項目ごとの基本方向に沿って適切で充実した施策が講じられている。さらに、各事業の推進にあたっては「計画」→「実行」→「点検」→「見直し」のいわゆるPDCAサイクルに沿って充実した取り組みがきめ細かく着実に実践されている。
また、「改善方法・結果」を受け、「今後の計画・方向性」が具体的に示されているため、次年度の「事業概要・目的」が明確になっており、より充実した施策として展開されることが期待できる点検・評価が行われている。
- この評価報告書を作成することは、上のPDCAサイクルを確実に実行していくことになり、三郷町の教育関連事業の充実・発展に確実に寄与しているものだと考える。
- 表記上の工夫になると思えるが、各項目の「6 今後の計画・方向性」のところ
で、「手法の見直し」「休止・廃止」にチェックの入ったところは、何を見直すのか、何を休止・廃止にするのが具体的に明記されていると良いのではないかとと思われる。
- 地域に教員養成系の大学があるので、教員の研修に関して大学との連携をさらに深め、「教科の指導法」「教材研究のあり方」「児童理解の方法」など、大学の教員をボランティアで講師として招聘するのも一つの方法ではないかと思われる。

令和2年8月27日

金山 憲正

